

アナログ機能

本装置には2つのアナログポートがあり、電話機やFAX等を接続して使うことができます。

INSナンバー・ディスプレイに対応

電話をかけてきた方の電話番号（発信電話番号）や、電話番号を通知できない理由をアナログ通信機器に通知し、ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器のディスプレイや、本装置のディスプレイに表示することができます。（☞P115）

疑似フレックスホン、疑似なりわけをサポート

フレックスホンサービス（有料）、INSなりわけサービス（有料）をご契約でない場合でも、疑似フレックスホン機能、疑似なりわけ機能によりこれらの機能をご利用になれます。

内線通話、内線転送

接続したアナログ通信機器間で内線通話や内線転送ができます。（☞P67、68）

コールバック機能 / 中継機能

電話をかけてきた方に自動的にかけ直したり、本装置を中継して電話をかけることができます。

一般のアナログ回線で使用しているプッシュ式（PB式）の電話機やFAX、モデムが使用できます。ダイヤル式（DP式）の電話機は使用できません。
外の相手の方に電話をかけるときは、受話器を取りあげ、電話番号をダイヤルします。電話機を複数台接続しているときは、それぞれの電話機から独立して外の相手の方に電話をかけることができます。また、使用TELポートや相手の方の電話番号が、本装置のディスプレイに表示されます。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 電話番号をダイヤルボタンで押します。
- 3 ダイヤルが終わったら **(#)** ボタンを押します。
TEL1ポートから0312345678へ発信したとき

ハツ1
0 3 1 2 3 4 5 6 7 8
- 4 相手の方が出たら、お話しください。
- 5 お話しが終わったら、受話器を置きます。

次ページへ続く

お知らせ

ダイヤル中に約4秒の間隔をあけるとダイヤルの途中でも発信します。また、ダイヤル終了後、約4秒たつと、**(#)** ボタンを押さなくてもダイヤルは発信されます。この間隔は変更できます。(←P106)
「切断音制御」が「使用しない」に設定されている場合は、相手の方がお話し中のときや相手の方が電話を切ったあとは、一定時間話中音が続き、そのあと無音になります。
いったん電話を切ったあとすぐに電話をかける場合は、受話器を置き、1秒以上待ってから受話器を取りあげ、ダイヤルしてください。

ワンポイント

フッキングとは

電話機のフックスイッチを押すことです。1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタンなど）を押します。フッキング代用機能をお使いのときは **Ⓜ** ボタンを押します。

ダイヤルを押し間違えたときは

1回フッキングをして、手順2からやり直してください。フッキング代用機能をお使いのときは、受話器を置き、もう一度はじめからやり直してください。

サブアドレスを追加して発信するには

相手の方の電話番号(アドレス)を押したあとに **Ⓧ** ボタンを押し、サブアドレスの番号を押します。

例 0312345678 **Ⓧ** 12345

アドレス サブアドレス

電話番号(アドレス)、サブアドレスについて

アドレスは3桁～32桁、サブアドレスの最大桁数は19桁で、いずれも数字(0～9)のみがダイヤルできます。

FAX・モデムの発信

接続しているFAX・モデムの操作方法に従って操作してください。

発信者番号を通知するには

INSネット64には発信者番号通知サービスがあります。このサービスを利用すると、発信したとき自局アドレスと自局サブアドレスを相手の方へ通知することができます。

通話時のボリュームを調整するには

通話時のボリュームを調整できます。(←P107)

停電のときには

設定によってTEL1ポートに接続したアナログ通信機器を使うことができます。(←P28)

特殊ダイヤル発信をするには

特殊ダイヤルには、先頭に「**Ⓜ**」がつく場合と、途中に「**Ⓧ**」や「**Ⓜ**」がある場合があります。

先頭に「**Ⓜ**」がつく場合には、チケット予約や伝言ダイヤルがありますが、これは通常にダイヤルしてください。

私設交換機などをご利用の場合は、途中に「**Ⓧ**」や「**Ⓜ**」がある番号を発信する必要がある場合があります。このような場合は以下のように操作してください。

フッキングする

ダイヤルトーンが聞こえたことを確認し、ダイヤルする

再度フッキングする

ダイヤルを間違えた場合は、受話器を置いてから、もう一度かけ直してください。なお、フッキング代用機能をお使いの場合は、特殊ダイヤルを発信することはできません。

短縮ダイヤルで電話をかけるには (短縮ダイヤル)

よくかける電話番号は、短縮ダイヤルに登録しておく便利です。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 (※) ボタンを押します。
- 3 短縮番号(00~39)をダイヤルボタンで押します。
- 4 相手の方が出たら、お話しください。
- 5 お話しが終わったら、受話器を置きます。

ワンポイント

短縮番号を登録するには(☞P85)

発信者番号を通知するには
INSネット64には発信者番号通知サービスがあります。このサービスを利用すると、発信したとき自局アドレスと自局サブアドレスを相手の方へ通知することができます。

通話時のボリュームを調整するには
通話時のボリュームを調整できます。
(☞P107)

停電のときには
設定によってTEL1ポートに接続したアナログ通信機器を使うことができます。
(☞P28)

お知らせ

「切断音制御」が「使用しない」に設定されている場合は、相手の方がお話し中のときや相手の方が電話を切ったあとは、一定時間話中音が続き、そのあと無音になります。

いったん電話を切ったあとすぐに電話をかける場合は、受話器を置き、1秒以上待ってから受話器を取りあげ、ダイヤルしてください。

同じ相手には(再ダイヤル)

最後にかけた相手の方に、**(*)** ボタンで簡単にかけることができます。相手の方がお話し中などでかけ直すときに便利です。
再ダイヤルは、TEL1ポート、TEL2ポートごとにサブアドレスまで記憶されます。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 **(*)** ボタンを2回押します。
- 3 相手の方が出たら、お話しください。
- 4 お話しが終わったら、受話器を置きます。

ワンポイント

発信者番号を通知するには
INSネット64には発信者番号通知サービスがあります。このサービスを利用すると、発信したとき自局アドレスと自局サブアドレスを相手の方へ通知することができます。

通話時のボリュームを調整するには
通話時のボリュームを調整できます。
(☞P107)

停電のときには
設定によってTEL1ポートに接続したアナログ通信機器を使うことができます。
(☞P28)

お知らせ

他の内線電話機でかけた電話番号を再ダイヤルすることはできません。
「切断音制御」が「使用しない」に設定されている場合は、相手の方がお話し中のときや相手の方が電話を切ったあとは、一定時間話中音が続き、そのあと無音になります。
いったん電話を切ったあとすぐに電話をかける場合は、受話器を置き、1秒以上待ってから受話器を取りあげ、ダイヤルしてください。

内線でお話するには (内線通話)

他のTELポートに接続された電話機を呼び出して、お話しすることができます。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ②を押します。
- 3 ㊦ ボタンを押します。
呼び出し音が聞こえます。
- 4 呼び出された方が応答したら、お話しください。
- 5 お話しが終わったら、受話器を置きます。

ワンポイント

フッキングとは

電話機のフックスイッチを押すことです。1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタンなど）を押します。フッキング代用機能をお使いのときは ㊦ ボタンを押します。

内線呼出ベルを変えるには

内線電話機からの呼出音を変えることができます。(P111)

㊦ ボタンがない電話機をお使いの場合は

手順2で、②、②、②をダイヤルすると相手の方を呼び出します。

お知らせ

手順2のあと、フッキングするとダイヤルがキャンセルされます。ただし、フッキング代用機能をお使いの場合はキャンセルされません。

呼び出した電話機がお話し中のとき、またはフリー転送中のときは、話中音が聞こえます。受話器を置き、再度かけ直してください。

内線通話中の外線着信は拒否されます。

停電中は内線通話はできません。

Bチャンネルを使用中のときも、内線でお話しすることができます。

いったん電話を切ったあとすぐに電話をかける場合は、受話器を置き、1秒以上待ってから受話器を取りあげ、ダイヤルしてください。

内線どうしでお話しするときは、通信クラスの設定には影響されません。

着信があると、TELポートに接続したアナログ通信機器に着信します。

- 1 着信音が鳴ります。

チャク
 0 3 1 2 3 4 5 6 7 8
- 2 受話器を取りあげて、相手の方とお話ください。
- 3 お話しが終わったら、受話器を置きます。

0 3 1 2 3 4 5 6 7 8

ワンポイント

着信種別の設定と内線電話機の呼び出し方の関係は(☞P96)

着信種別	呼び出し方
着信禁止	着信を拒否し、発信専用にします。
着信許可	着信できます。TEL1ポートとTEL2ポートに同じ電話番号を設定しており、すべて空いているときはTEL1ポートに優先的に着信音を鳴らします。
通話中着信許可 (コールウェイティング)	通話中に別の電話がかかってきたときに、割込音を鳴らします。TEL1ポートとTEL2ポートに同じ電話番号を設定しており、すべて通話中のときは、TEL1ポートに優先的に割込音を鳴らします。
追加呼出許可	TEL1ポートとTEL2ポートに同じ電話番号を設定している場合、着信時にすべての電話機の着信音を鳴らします。
通話中追加呼出許可	TEL1ポートとTEL2ポートに同じ電話番号を設定している場合、空いているTELポートに着信音を鳴らすと同時に、通話中のTELポートに割込音を鳴らします。

お話し中に相手の方から電話を受けるには(コールウェイティング・疑似コールウェイティング)
 外の相手の方とお話し中に別の相手の方からの電話を受けることができます。

かかってきた電話を転送するには(着信転送)
 かかってきた電話を外の相手の方に転送することができます。(☞P88)

外からの電話を特定の内線電話機で受けるには
 ダイヤルインサービスを利用する方法(☞P100)と、サブアドレス通知サービスを利用する方法(☞P102)があります。

通話時のボリュームを調整するには
 通話時のボリュームを調整できます。(☞P107)

お知らせ

ナンバー・ディスプレイをご契約の場合や、INSネット64をご契約の相手の方から着信した場合は、本装置のディスプレイに電話番号が表示されます。(☞P21)

外からの電話を取りつぐには (内線転送)

外の相手の方との電話を他の内線電話機に取りつぎます。TEL1ポート、TEL2ポートのどの電話機からも同じ操作で取りつぐことができます。

ワンポイント

フッキングとは電話機のフックスイッチを押すことです。1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタンなど）を押します。フッキング代用機能をお使いのときは **Ⓜ** ボタンを押します。

内線呼出ベルを変えるには内線電話機からの呼出音を変えることができます。(P111)

相手先の方が応答する前に転送するには手順2の呼出中に受話器を置くと、呼び出される方が応答する前に転送することができます。

お知らせ

呼び出した電話機がお話し中のときは、話中音が聞こえます。話中音が聞こえているときにフッキングをすると、外の相手の方との電話に戻ります。

手順2で **②** 以外をダイヤルしても無視されます。

内線呼出中、内線通話中に外線が切れても内線転送は継続できます。ただし、**②** をダイヤルする前に外線が切れた場合は、話中音になります。

停電中は内線転送はできません。

いったん電話を切ったあとすぐに電話をかける場合は、受話器を置き、1秒以上待ってから受話器を取りあげ、ダイヤルしてください。

相手の方が応答しなかった場合は、フッキングすると外の相手の方とのお話しに戻ることができます。

内線どうしてお話しするときは、通信クラスの設定には影響されません。

1 お話し中に、外の相手の方に待っていただくよう伝え、1回フッキングします。

「ツツツツ…」という音を確認してください。外の相手の方は、保留になります。

2 **②** を押します。

呼出音が聞こえます。

3 呼び出された方が応答したら、転送することを伝えます。

4 受話器を置きます。

i・ナンバーを利用するには

i・ナンバーを利用すると、INSネット64 / INSネット64ライトの2本のチャンネルに別々の番号を割り当てることができます。つまり、FITELnet-E20/E30に接続した2台の電話が別々の番号をもてることになります。

- 家族用 / 子供用といった着信者別
- 電話用 / FAX用といったメディア別
- 仕事用 / 家庭用といった目的別

等の使い分けも簡単に行うことができます。

i・ナンバーをご利用になるときは、NTTとの契約（有料）が必要です。詳しくはNTT窓口等へお問い合わせください。

TEL1ポート、TEL2ポートごとに、「契約者回線番号だけ鳴らす」「追加回線番号だけ鳴らす」「契約者番号と追加回線番号を鳴らす」の中から電話の鳴らし方を設定することができます。なお、すでにダイヤルインを利用している場合で、i・ナンバーに移行した場合は、電話の鳴らし方の設定変更は必要ありません。

追加番号の登録

[初期値 : i・ナンバーなし]

1

受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2

③ * ⑧ を押します。

3

追加番号をダイヤルボタンで押します。

追加番号は、市外局番を入れないで登録します。

<例>追加番号が、03-1234-5678の場合

3 * 812345678

03は、市外局番のため入力しません。

4

Ⓜ ボタンを押します。

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

5

受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは (☞P64)

正しく設定されなかったときは (☞P84)

コマンドで設定するには (☞P131)

i・ナンバー3番号を契約の場合は

③ * ⑨ で登録します。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

契約者回線番号だけ鳴らすように設定する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑤ * * を押します。
- 3 ㊦ ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

追加回線番号だけ鳴らすように設定する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑤ * * を押します。
- 3 追加番号をダイヤルボタンで押します。
追加番号は、市外局番を入れないで登録します。
- 4 ㊦ ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

i・ナンバーを利用するには

契約者番号と追加回線番号を鳴らすように設定する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑤ * を押します。
- 3 ③ ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

コールウェイティングを利用するには

外の相手の方とお話し中に、別の相手の方から電話がかかってきたとき、お話し中の方を保留にして、かけてきた方とお話することができます。コールウェイティング、疑似コールウェイティングとも操作方法は同じです。

- 1 外の相手の方とお話し中に「ツウツウ・ツウツウ...」という着信音が聞こえます。
- 2 外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。
かけてきた相手の方に切り替わります。
- 3 かけてきた相手の方とお話してください。
- 4 もう一度フッキングを行い、①を押すと、前の方とお話できます。

ワンポイント

フッキングとは
電話機のフックスイッチを押すことで、1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタンなど）を押します。フッキング代用機能をお使いのときは **Ⓜ** ボタンを押します。

その発信に限りコールウェイティングを無効にするには

受話器を取りあげる

①、⑧、⑩を押す

電話番号をダイヤルする

相手の方とお話し中はコールウェイティングがはたらきません。ただし、保留や内線転送操作を行った場合は、その時点からコールウェイティングが有効になります。

コールウェイティングを設定するには
着信許可指定で設定します。(☞P96)

お知らせ

疑似フレックスホンを利用する場合は以下の項目にご注意ください

- コールウェイティングは同時に複数のポートでご利用できません。
- コールウェイティング中は新たな着信は受け付けられません。
- 2台以上の電話機やパソコン等を接続しているときに、2台(2Bチャンネル)同時に使用しているとコールウェイティングは利用できません。
- 疑似コールウェイティング中は、他の空いているポートを使用することはできません。
- 2番目にかけてきた相手の方とお話しが終わり、受話器を置くと、着信音が鳴ります。このとき、受話器を取りあげると保留にしていた方とお話しができます。
- 外の相手の方を保留にしておける時間は約3分です。約3分たつと保留されている外の相手の方は電話が切れますのでご注意ください。本装置では、電話が切れる約10秒前に警報音が鳴ります。

通話中の電話を転送するには (通信中転送)

外の相手の方を保留にして、別の相手の方に電話をかけて取りつぐことができます。

ワンポイント

フッキングとは
電話機のフックスイッチを押すこと
です。1秒以上押し続けると電話が切れる
ことがあります。コードレスホンや多機
能電話機などをお使いのときは、キャッ
チボタン(またはフックボタン、フラッ
シュボタンなど)を押します。フッキン
グ代用機能をお使いのときは **Ⓜ** ボタン
を押します。

転送先の方が応答する前に転送するには
手順3で転送先に電話をかけ、相手の方
が電話に出る前に受話器を置きます。

手順4で、呼び出された方がお話し中
のとき、または応答しないとき
いったん受話器を置くと、着信音が鳴り
ます。受話器を取りあげると、保留にし
ていた方とお話しできます。また、お話
し中のときは受話器を置くかわりに1回
フッキングすると、保留にしていた方と
お話しできます。

手順4で、お話し中に通信中転送をやめ
るときは
いったん受話器を置くと、着信音が鳴り
ます。受話器を取りあげると、保留にし
ていた方とお話しできます。

手順4で、元の相手との通話に戻すには
1回フッキングしてから **①** を押し
ます。お話し中の相手との電話は保留にな
り、元の相手との通話に戻ります。また、
フッキングしてから **①** を押す前に3秒
以上経過した場合も、元の相手との通話
に戻ります。

お知らせ

疑似フレックスホンを利用する場合は以下の項目にご注意ください

- 手順2で、フッキングしてから **①** を押す前に3秒以上経過すると、「ツツツツ…」という音が聞こえます。この場合は、続けて手順3から行ってください。
- こちらから発信した場合、通話料金はすべて本装置にかかります。
- 2台以上電話機やパソコンなどを接続しているときに、2台(2Bチャンネル)同時に使用していると、通信中転送は利用できません。
- 通信中転送でお話し中の場合は、新たな電話は受け付けられません。

1 お話し中の相手の方に待っていただくよう伝え、1回フッキングします。

「ツツツツ…」という音を確認してください。

2 **①** を押します。

「ツツツツツツツツ…」という音を確認してください。外の相手の方は、保留になります。

3 別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押します。

4 呼び出された相手の方が応答したら、転送することを伝えます。

お話し中に「ツツツツ…」という音が聞こえます。

5 1回フッキングします。

「ツツツツ…」という音を確認してください。

6 **②** を押します。

7 受話器を置きます。

3人でお話するには (三者通話)

外の相手の方とお話中に、別の相手の方に電話をかけ、3人同時にお話することができます。

この機能を利用するためには、NTTとフレックスホンの利用契約が必要です。

ワンポイント

フッキングとは

電話機のフックスイッチを押すことです。1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタン）を押します。フッキング代用機能をお使いのときは、**Ⓜ**ボタンを押します。

手順3で、別の相手の方がお話中のとき、または応答しないときはいったん受話器を置くと、着信音が鳴ります。受話器を取りあげると、保留にしていた方とお話できます。また、お話し中のときは、受話器を置くかわりに、1回フッキングすると、保留にしていた方とお話できます。

相手の方を保留にしておける時間は約3分です。約3分たつと保留されている相手の方は電話が切れますのでご注意ください。本装置では、電話が切れる約10秒前に警報音が鳴ります。

お知らせ

TEL2ポートおよび外の相手の方の3者による三者通話はできません。

2番目にかけた相手の方のお話しが終わり受話器を置くと、着信音が鳴ります。受話器を取りあげると、保留にしていた方と、またお話できます。

三者通話でお話し中の場合は、新たな電話は受け付けられません。

手順1で、フッキングをしたあと、手順2で、**①**を押す前に約3秒経過すると「ツツツツツツツ…」という音が聞こえます。この場合は、続けて手順3から行ってください。

手順5で、1回フッキングをしてから**②**を押すと、自分以外の方の2人だけでお話することができます。

1 お話中に、外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。

「ツツツツ…」という音を確認してください。

2 **①**を押します。

「ツツツツツツツ…」という音を確認してください。

3 別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押します。

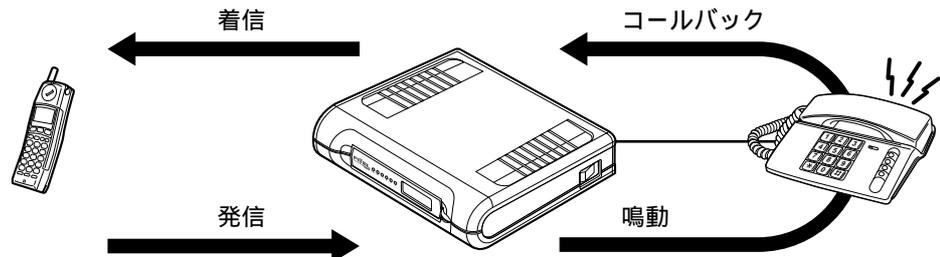
4 相手の方が出たら、お話しください。

5 待っていただくように伝え、1回フッキングし、**③**を押すと、3人でお話することができます。

6 お話しが終わったら、受話器を置きます。

コールバック機能を利用するには

電話がかかってきたときに、かけてきた方に自動的に電話をかけ直す（コールバック）ことができます。例えば、携帯電話から会社に電話をかけるときに、通話料金を会社側の負担にしたい場合などにコールバック機能を使います。コールバック機能を利用するには、本設定のほか、コールバックの要求元の電話番号を短縮番号（20～39のいずれか）に登録しておく必要があります。（☞P85）



コールバック機能の設定

[初期値：コールバックしない]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ①、* を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ①～②のいずれかを押します。
0：コールバックしない
1：発信者番号が登録されている場合のみ、コールバックする
2：発信者番号が登録されている場合、または発信者番号通知がない場合もコールバックする
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）
正しく設定されなかったときは（☞P84）
Webブラウザで設定するには（☞P125）
コマンドで設定するには（☞P131）

お知らせ

発信者番号通知機能を持たない電話機でコールバック機能を利用したいときは、短縮番号20に登録し、手順3で②を選んでください。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。
設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）
中継機能、コールバック機能、着信転送機能は同時に設定しないでください。

コールバック機能の利用

ワンポイント

コールバックしたくないときは「コールバックを要求する方の操作」の手順2で、電話を切らずに呼び出しを続けてください。

「コールバックを要求する方の操作」の手順3で、呼出し音が約60秒間続くとコールバックの要求は無効になります。

コールバックの要求をしたのに呼出し音が鳴らないときはTEL1ポート、TEL2ポートに接続されている電話機側が通話中、または不在です。

お知らせ

「TEL1ポート、TEL2ポートに接続されている電話機での操作」の手順2で、呼出し音が鳴ってからすぐに受話器を取りあげると、コールバックしません。かけてきた相手の方とつながります。

コールバック機能の短縮番号(20~39)は、中継機能の短縮番号と共有になります。本機能は、発信者番号通知である内容を利用してコールバックするので、発信元は発信者番号通知機能を持つ電話機である必要があります。ただし、発信者番号通知機能を持たない電話機でも、短縮番号20に登録するとコールバック機能が利用できます。

コールバック機能、中継機能、着信転送機能は同時に利用しないでください。

コールバックを要求する方の操作(短縮番号20~39に登録されている電話機での操作)

- 1 短縮番号20~39に登録されている電話機から、TEL1ポート、TEL2ポートのいずれかに接続されている電話機に電話をかけます。
- 2 呼出し音が聞こえたら4回以内に、受話器を置きます。
- 3 しばらくすると呼出し音が鳴ります。
- 4 受話器を取りあげて、お話しください。
- 5 お話しが終わったら、受話器を置きます。

TEL1ポート、TEL2ポートに接続されている電話機での操作

- 1 呼出し音が鳴ります。
- 2 2回以上呼出し音が鳴ってから、受話器を取りあげます。
呼出し音が聞こえます。
- 3 相手の方が応答したら、お話しください。
- 4 お話しが終わったら、受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

中継機能を利用するには (中継許可指定)

中継機能は、発信者番号通知とサブアドレスを利用し、本装置を中継して他の相手の方に電話をかける機能です。例えば、中継機能を利用すると、本装置を中継してPHSから携帯電話にかけることができます。中継機能を利用するには、本設定のほかに、中継機能の要求元の電話番号を短縮番号(20~39のいずれか)に登録する必要があります。(☞P85)

中継許可指定の設定

お知らせ

中継機能の短縮番号(20~39)は、コールバック機能の短縮番号と共有になります。

本機能は、発信者番号通知の内容とサブアドレスを利用するので、発信元は発信者番号通知機能とサブアドレス通知機能を持つ電話機をお使いください。

中継点として利用するTELポートには、サブアドレスを指定しないでください。

中継機能は、フレックスホンサービスの着信転送機能またはフリー転送機能を利用します。フレックスホンサービスのご契約でない場合に中継機能を利用するときは、必ず「フリー転送許可」の設定にしてください。

[初期値：中継しない]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ①、②を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ③ ④または③ ①を押します。
30：中継しない
31：中継する
正しく設定されると「ツウツウツウ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

中継許可指定の利用

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは(☞P84)

Webブラウザで設定するには(☞P125)

コマンドで設定するには(☞P131)

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

中継機能、コールバック機能、着信転送機能は同時に設定しないでください。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 中継するTELポートに接続されている電話機の電話番号を押します。
- 3 ② ボタンを押します。
- 4 相手先の電話番号をダイヤルボタンで押しします。
- 5 相手の方が出たら、お話しください。
- 6 お話しが終わったら、受話器を置きます。

INSボイスワープ機能を利用するには

INSネット64の付加サービスであるINSボイスワープを利用することができます。INSボイスワープは、フレックスホンの着信転送に比べて、高性能な着信転送サービスです。INSボイスワープ機能をご利用になるには、NTTとの利用契約が必要です。

ワンポイント

INSボイスワープの主なメリット

- 転送方法を「無条件に転送、応答しない場合に転送、お話し中のときに転送」の3種類から選択できます。なお、**④**については組み合わせてのご利用ができます。
- 転送先を5つまで登録でき、その中から転送先を選べます。転送先の登録を変更することもできます。
- 外出先から転送条件を変更することもできます。

フッキングとは

電話機のフックスイッチを押すことです。1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタン）を押します。フッキング代用機能をお使いのときは、**Ⓜ**ボタンを押します。

お知らせ

ボイスワープをご利用になるときは、発信者番号通知を「通知する」に設定してください。

ボイスワープの契約番号が契約者番号で契約されている場合は、まずダイヤルボタンで「**④**、**✳**、**⑨**、契約者番号、**Ⓜ**」の順に押し、契約者番号を登録してください。

INSボイスワープについて、詳しくはNTT窓口等へお問い合わせください。

手順3の入力中にフッキングすると、それまで入力したダイヤルすべてがキャンセルされます。ただし、フッキング代用機能をお使いの場合はキャンセルされません。

- 1 受話器を取りあげます。
- 2 INSボイスワープの電話番号（1422）をダイヤルボタンで押します。
- 3 ガイダンスに従って、電話機のダイヤルボタンで入力操作を行います。
- 4 受話器を置きます。

INSなりわけサービスを利用するには

INSネット64からのなりわけ通知に対して、呼出音を変えることができます。

- 1 受話器を取りあげます。
- 2 なりわけサービスの電話番号（147）をダイヤルボタンで押します。
- 3 ガイダンスに従って、電話機のダイヤルボタンで入力操作を行います。
- 4 受話器を置きます。

お知らせ

なりわけサービスをご利用になるときは、発信者番号を「通知する」に設定してください。

なりわけサービスの契約番号が契約者番号で契約されている場合は、手順2のあとダイヤルボタンで「④、⑥、⑨、契約者番号、②」の順に押して、契約者番号を登録してください。

別のTELポートが着信中は、なりわけ着信できません。

通信中に電話機を移動するには (通信中機器移動)

通話を一時中断して電話機を移動したあと、通話を再開できます。

通話を中断する

- 1 お話し中に1回フッキングします。
「ツツツツ...」という音を確認してください。
- 2 ㊦ ボタンを押します。
「ツツツツ...」という音を確認してください。
- 3 中断する通話を識別するための番号(0~9)をダイヤルボタンで押します。
「ツーツー」という音を確認してください。
- 4 受話器を置きます。

通話を再開する

- 1 受話器を取りあげます。
- 2 ㊦ ボタンを押します。
- 3 中断している通話を識別するための番号(0~9のいずれか)をダイヤルボタンで押します。
- 4 ㊦ ボタンを押します。
- 5 相手の方とお話しします。
- 6 お話しが終わったら、受話器を置きます。

ワンポイント

同じ回線に接続された別の電話機から通話を再開するには
手順3で中断する通話を識別するための番号(0~9)を押します。中断している通話を識別するための番号と同じ番号を使用しないと、通話を再開できません。

お知らせ

お話しを中断してから、約3分たつと電話が切れます。再開操作はその間に行ってください。
相手がPHSの場合、通信中機器移動はできません。

アナログ機能を設定するには

TEL1ポート、TEL2ポートに接続したアナログ通信機器は、あらかじめ本装置設定済みのパラメータ(工場出荷時の初期値)に従って一般的な機能の範囲でご利用になれます。さらに、本装置の機能を有効にご利用になる場合は、パラメータの設定値を変更します。

パラメータの設定値の変更は、TELポートに接続した電話機からダイヤルボタンを押して設定する方法、Webブラウザを利用して設定する方法、およびコマンドを入力して設定する方法の3通りあります。

- 電話機を利用した設定 (☞P84)
- Webブラウザを利用した設定 (☞P35)
- コマンドを利用した設定 (☞P38、42)

アナログ機能一覧

TEL1ポート、TEL2ポートに接続したアナログ通信機器では、次の機能を利用できます。

機能名	NTTとの付加サービス契約	電話で設定するには	電話で利用するには
短縮ダイヤル	不要	(☞P85)	(☞P65)
着信転送	要(有料) / 不要 ¹	(☞P86)	-
フリー転送	不要	(☞P93)	-
追っかけ転送	不要	(☞P94)	-
発信者番号通知	不要	(☞P97)	-
グローバルセレクト	不要	(☞P101)	-
ダイヤルイン	要(有料)	(☞P100)	-
サブアドレス	不要	(☞P102)	-
機器種別	不要	(☞P104)	-
ダイヤル完了タイマ	不要	(☞P106)	-
追加呼出遅延(ベル回数)	不要	(☞P108)	-
フッキング/フッキング代用	不要	(☞P110)	-
内線呼出ベル	不要	(☞P111)	-
切断音制御	不要	(☞P112)	-
識別着信	不要 ²	(☞P113)	-
FAX無鳴動着信	不要	(☞P114)	-
INSナンバー・ディスプレイ	要(有料) / 不要 ³	(☞P115)	-
ベル周波数	不要	(☞P118)	-
発信者番号優先着信	不要	(☞P119)	-
コールバック	不要	(☞P76)	(☞P77)
中継機能	不要	(☞P78)	(☞P78)
発信	不要	-	(☞P63)
再ダイヤル	不要	-	(☞P66)
内線通話	不要	-	(☞P67)
着信	不要	-	(☞P68)
内線転送	不要	-	(☞P69)
i・ナンバー	要	-	(☞P70)
コールウェイティング	要(有料) / 不要 ¹	-	(☞P73)
通信中転送	要(有料) / 不要 ¹	-	(☞P74)
三者通話	要(有料)	-	(☞P75)
INSボイスワープ	要(有料) / 不要 ¹	-	(☞P79)
INSなりわけサービス	要(有料) / 不要 ¹	-	(☞P80)
通信中機器移動	不要	-	(☞P81)

1 NTTとの利用契約(有料)が必要です。ただし、本装置をお使いの場合は、フレックスホンサービス、なりわけサービスをご契約でない場合でも、同様の機能をご利用になれます。

2 相手の方が、自分の番号を通知する必要があります。

3 NTTとの利用契約が必要です。ただし、相手の方がINSネット64をお使いの場合は、ナンバー・ディスプレイ機能をご利用になれます。

フレックスホンサービス

フレックスホンサービスは、INSネット64の付加サービスです。フレックスホンサービスをご利用になるには、NTTとの利用契約（有料）が必要です。

ただし、本装置をお使いの場合は、フレックスホンサービスをご契約でない場合でも、同様な機能をご利用になれます（疑似フレックスホン機能）。

フレックスホンサービスをご契約でないとき

フレックスホンサービスをご契約の場合でなくても、同様な機能（コールウェイティング・通信中転送・着信転送・三者通話）をご利用になれます。ただし、2台以上の電話機やパソコンなどを接続しているときに2台（2Bチャンネル）同時に使用していると、その機能を利用することはできません。

三者通話機能は、切替モードのみご利用になれます。

ワンポイント

INSネット64サービスとは
INSネットサービスは、NTTが提供するISDNサービスです。

フレックスホンサービスの契約内容を確認するには
本装置のディスプレイに、フレックスホンサービスの契約内容を表示できます。

受話器を取りあげる

Ⓜ、Ⓜ、Ⓜと押す

本装置のディスプレイには、契約内容が約10秒間表示されます。

お知らせ

相手がPHSの場合、料金情報通知サービスは受けられない場合があります。

電話機を利用した設定

本装置に接続した電話機から、いろいろなアナログ機能を設定することができます。設定は、TEL1ポート、TEL2ポートの2つに分けて行うことができます。また、TEL1ポートに接続されているアナログ通信機器からTEL2ポートのアナログ機能を設定したり、1つのTELポートからすべてのポートに共通するアナログ機能を一括して設定することもできます。設定が終了したら、保存操作を行ってください。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは設定操作を終えたあと、「ツツツツツ」という音が聞こえなかったときは、正しく設定されていません。この場合は、1回フッキングをして、手順2からやり直してください。フッキング代用機能をお使いのときは、受話器を置き、はじめからやり直してください。

1つのTELポートから別のTELポートのアナログ機能を設定するにはTEL1ポートに接続されている電話機から、TEL2ポートのアナログ機能を設定することができます。(TEL2ポートからTEL1ポートを設定することもできます。)

受話器を取りあげる

⊗、⊃、⊂ <設定するTELポート番号(1または2)>を押す

以降、手順2から操作を行ってください。

1つのTELポートからすべてのTELポートのアナログ機能を一括して設定するには

受話器を取りあげる

⊗、⊃、⊗を押す

以降、手順2から操作を行ってください。ただし、そのTELポートのみ利用できるアナログ機能は、一括して設定できません。

お願い

通話・通信中のときは、設定や保存を行わないでください。

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 機能番号を押します。

機能番号	設定内容	参照ページ
0	短縮ダイヤル登録	☞P85
1	コールバック、中継機能設定 INSナンバー・ディスプレイ、疑似なりわけ	☞P76、78、 115、117
2	着信転送設定	☞P86
3	着信種別設定	☞P96
4	発信者番号通知設定	☞P97
5	グローバルセレクト、ダイヤルイン設定	☞P100
6	サブアドレス設定	☞P102
7	機器種別設定(TELポートのHLC設定)	☞P104
8	ダイヤル完了タイマ設定	☞P106
9	その他	☞P107~114、 118~120

3 ⊗ ボタンを押します。

「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。

4 パラメータをダイヤルボタンで押します。

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

5 受話器を置きます。

6 設定が終了したら、設定を保存してください。(☞P124)

短縮ダイヤル登録を行うには

TEL1ポート、TEL2ポートごとに、またはTELポート共通の短縮ダイヤルを合わせて40か所まで登録できます。短縮番号00～09は発信者番号優先着信(☞P119)、20～39はコールバック、中継機能対象番号と共用になります。

[初期値：未登録]

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは(☞P84)

Webブラウザで設定するには(☞P125)

コマンドで設定するには(☞P131)

電話番号(アドレス)・サブアドレスについて

アドレスは3桁～32桁、サブアドレスは最大19桁で、いずれも数字(0～9)と*が登録できます。アドレスとサブアドレスの区切りには(✳)ボタンを押します。

例 0312345678 ✳ 12345

アドレス サブアドレス

コールバックを行う電話番号を登録するには

コールバックを行う電話番号(発信元の電話番号)を短縮番号20～39のいずれかに登録してください。発信者番号通知機能を持たない電話機の場合は、短縮番号20に登録してください。

中継を行う電話番号を登録するには
中継を行う電話番号(発信元の電話番号)を短縮番号20～39のいずれかに登録してください。(☞P78)

短縮ダイヤルの登録を取り消すには

受話器を取り上げる

(0)、(✳)、短縮番号、(✳)を押す

受話器を置く

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

コールバックを行う電話番号にはサブアドレスを登録しないでください。

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 (0)、(✳)を押します。

「ツウツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。

3 短縮番号(00～39)をダイヤルボタンで押します。

4 登録する電話番号を市外局番からダイヤルボタンで押します。

5 (✳)ボタンを押します。

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

6 受話器を置きます。

着信転送設定を行うには

NTTのフレックスホンサービスの着信転送機能をご利用になると、外の相手の方からの電話を、決められた別の相手の方に直接取りつぐことができます。着信転送機能をご利用になる時は、NTTとの利用契約が必要です。詳しくはNTT窓口等へお問い合わせください。必要に応じて呼出ベル回数の設定（☞P89）、転送トーキの設定（☞P100）を行ってください。

着信転送を設定する

着信転送は、TELポートごとに設定できます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

リモート設定を行うには
ISDN公衆電話など、本装置に接続されていない電話機から着信転送機能の設定・解除を行うことができます（リモート設定）。

リモート設定を行うときは、あらかじめ暗証番号の登録が必要です。（☞P91）

呼出音を鳴らしてから転送するには
転送時、設定回数だけ呼出音を鳴らしてから、転送することができます。（☞P89）

着信転送の登録を取り消すには

受話器を取りあげる

②、⊛、②、⊛を押す

受話器を置く

お知らせ

着信転送先には、サブアドレスや特殊番号は登録できません。

着信転送先が登録されていないと、転送できません。

お願い

着信転送機能（フリー転送を含む）を設定したときは、同時に中継機能、コールバック機能は設定しないでください。

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

着信転送先の登録

[初期値：未登録]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ②、⊛を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ②を押します。
- 4 着信転送先の電話番号を市外局番からダイヤルボタンで押します。
- 5 ⊛ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 6 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)
正しく設定されなかったときは(☞P84)
Webブラウザで設定するには(☞P125)
コマンドで設定するには(☞P131)
フレックスホンサービスをご契約でないときは
フリー転送をご利用になれます。
(☞P93)

お知らせ

本装置までの通話料金は電話をかけてきた方に、本装置から転送先間の通話料金は本装置にかかります。転送先がお話し中などで着信できない場合、お買い求め時の設定では、電話をかけてきた方にも本装置にも通話料金はかかりません。
着信転送中は、コールバック機能、中継機能を利用できません。
フレックスホンサービスをご利用の時、転送先に通知される発信者番号通知の内容は、発信元の電話番号になります。
フリー転送をご利用の時は、本装置の電話番号が通知されます。
フレックスホンサービス(着信転送)をご契約の場合でも、着信転送機能を使えないときは、「フリー転送許可」に設定しているときに限り、フリー転送機能を使って転送することができます。
着信転送中は、同じINSネット64上に接続されている電話機では着信転送できません。
遅延着信転送設定時、転送トーキ、転送元トーキをどちらも「なし」に設定している場合は、転送先がお話し中のときでも、話中音は鳴らず、呼出音が3分以上鳴ることがあります。

着信転送機能の設定

[初期値：着信転送しない]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ②、③を押します。
「ツウツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ④または⑤を押します。
0：着信転送しない
1：着信転送する
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

着信転送設定を行うには

ワンポイント

リモート先から着信転送を一括設定するには
着信転送機能を一括設定するには、TEL1ポート、TEL2ポートの着信転送設定用暗証番号を同じ番号に設定してください。

リモート先電話機の受話器を取り上げる

<本装置に接続されている電話機の電話番号>、**(*)**、<着信転送設定用暗証番号>を押す

受話器を置く

リモート先の電話機は、サブアドレスを送信できるものに限りです。

リモート先から着信転送を一括解除するには
着信転送機能を一括解除するには、TEL1ポート、TEL2ポートの着信転送解除用暗証番号を同じ番号に設定してください。

リモート先電話機の受話器を取り上げる

<本装置に接続されている電話機の電話番号>、**(*)**、<着信転送解除用暗証番号>を押す

受話器を置く

リモート先の電話機は、サブアドレスを送信できるものに限りです。

お知らせ

リモート先から設定する場合、ダイヤルイン番号はチェックされません。

着信転送機能の一括設定

着信転送機能については、簡単な手順ですべてのTELポートの機能を設定、解除することができます。

[初期値：すべてのTELポートの着信転送機能を停止する]

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 **(#)**を押します。

「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。

3 **② ①**または**② ①**を押します。

20：すべてのTELポートの着信転送機能を停止する

21：すべてのTELポートの着信転送機能を開始する

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

4 受話器を置きます。

呼出ベル回数を設定する

着信転送（フレックスホンサービス）やフリー転送時に設定回数だけ呼出音を鳴らしてから転送するように、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定ができます。呼出音が鳴っているときに受話器を取りあげると転送はキャンセルされ、かけてきた相手の方とお話することができます。

[初期値 : 0]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ②、⊗を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ③を押します。
- 4 呼出ベル回数（0～9）をダイヤルボタンで押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

呼出ベル回数を0に設定すると
着信音を鳴らさずにすぐに転送します。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わない
でください。

設定が終了したら、保存操作を行って
ください。（☞P124）

転送トーンを設定する

NTTのフレックスホンサービスの着信転送をご契約の場合は、転送トーン、転送元トーン（INSネット64より送られる音声によるメッセージ）をTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。詳しくはNTT窓口等へお問い合わせください。

[初期値：転送トーンなし・転送元トーンなし]

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 ②、③を押します。

「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。

3 ④を押します。

4 ①～④のいずれかを押します。

- 1：転送トーンなし・転送元トーンなし
- 2：転送トーンあり・転送元トーンなし
- 3：転送トーンなし・転送元トーンあり
- 4：転送トーンあり・転送元トーンあり

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

5 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

転送トーン、転送元トーンのメッセージ内容

- 転送トーン（電話をかけてきた相手の方に流れます）
「ただいま電話を転送しますので、そのままお待ちください。」
- 転送元トーン（転送先の相手の方に流れます）
「電話が転送されますので、そのままお待ちください。」

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

暗証番号を登録する

NTTのフレックスホンサービスの着信転送をご契約の場合は、ISDN公衆電話など本装置に接続されていない電話機から着信転送機能の設定・解除を行うことができます（リモート設定）。

リモート設定を行うときは、あらかじめ着信転送設定用暗証番号および着信転送解除用暗証番号の登録が必要です。これらの暗証番号は、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

着信転送設定用暗証番号の登録を取り消すには

受話器を取りあげる

②、⑥、⑤、⑧を押す

受話器を置く

リモート先から着信転送を設定するには

受話器を取りあげる

本装置に接続されている電話機の電話番号、⑥、着信転送設定用暗証

番号を押す

受話器を置く

リモート先電話機は、サブアドレスを送信できるものに限りです。

お知らせ

着信転送設定用暗証番号には着信転送解除用暗証番号と同じ番号は登録しないでください。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

暗証番号に⑥や⑧は登録できません。TELポートにサブアドレスが設定されている場合は、暗証番号とサブアドレスが同じ値にならないように登録してください。

着信転送設定用暗証番号の登録

[初期値：未登録]

1

受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2

②、⑥を押します。

「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。

3

⑤を押します。

4

4桁の着信転送設定用暗証番号（0000～9999）をダイヤルボタンで押します。

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

5

受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

着信転送設定を行うには

着信転送解除用暗証番号の登録

[初期値：未登録]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ②、⑥を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑥を押します。
- 4 4桁の着信転送解除用暗証番号（0000～9999）をダイヤルボタンで押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（←P64）

正しく設定されなかったときは（←P84）

Webブラウザで設定するには（←P125）

コマンドで設定するには（←P131）

着信転送解除用暗証番号の登録を取り消すには

受話器を取りあげる

②、⑥、⑥、⑥を押す

受話器を置く

リモート先から着信転送を解除するには

受話器を取りあげる

本装置に接続されている電話機の電話番号、⑥、着信転送解除用暗証

番号 を押す

受話器を置く

リモート先電話機は、サブアドレスを送信できるものに限りです。

お知らせ

着信転送解除用暗証番号には着信転送設定用暗証番号と同じ番号は登録できません。

フリー転送を設定する

NTTのフレックスホンサービスの着信転送をご契約でなくても、外の相手の方からの電話を、決められた別の相手の方に直接取りつぐことができます。

フリー転送は、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。

[初期値：フリー転送許可1 転送失敗時、発信者に話中音を流す]

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 ②、⊗を押します。

「ツウツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。

3 ⑦①① ~ ⑦③のいずれかを押します。

70：フリー転送を行わない

71：フリー転送許可1

転送失敗時、発信者に話中音を流す

72：フリー転送許可2

転送失敗時、発信者にアナウンス流す（発信者には通話料がかかります）

73：フリー転送代替着信

転送失敗時、本装置が最初に着信したTELポートに接続されている電話機を呼び出す

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

呼出音を鳴らしてから転送するには
転送時、設定回数だけ呼出音を鳴らしてから、転送することができます。（☞P89）

フリー転送した件数を確認するには
本装置のディスプレイにフリー転送した電話の件数を表示できます。

表示するTELポートの電話機の受話器
を取りあげる

Ⓜ、Ⓜ、Ⓜを押す

ディスプレイにはTELポート番号と転送
件数が約10秒間表示されます。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わない
でください。

設定が終了したら、保存操作を行って
ください。（☞P124）

お知らせ

フリー転送は、空き状態の回線が2回線ある場合にご利用になれます。
フリー転送が許可されていても、フレックスホン契約が有効なときは
フレックスホン契約の方が優先されます。

「着信種別」が「着信禁止」に設定されている場合は、フリー転送は設
定できません。

「着信転送機能」が「転送しない」に設定されている場合、フリー転送
は利用できません。

フリー転送機能（着信転送を含む）を設定したときは、同時に中継機
能、コールバック機能は設定しないでください。

3
アナログ通信
機器を使う

追っかけ転送を設定する

NTTのフレックスホンサービスの着信転送をご契約でなくても、「追っかけ転送先」を登録しておくで、転送先がお話し中のときに別の相手に取りつぐ（代替転送）ことができます。

[初期値：未登録]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ②、⑥を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑧を押します。
- 4 追っかけ転送先の電話番号を市外局番からダイヤルボタンで押します。
- 5 ⑨ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 6 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

追っかけ転送先の登録を取り消すには

受話器を取りあげる

②、⑥、⑧、⑨を押す

受話器を置く

お知らせ

NTTのフレックスホンサービスでは、追っかけ転送はできません。

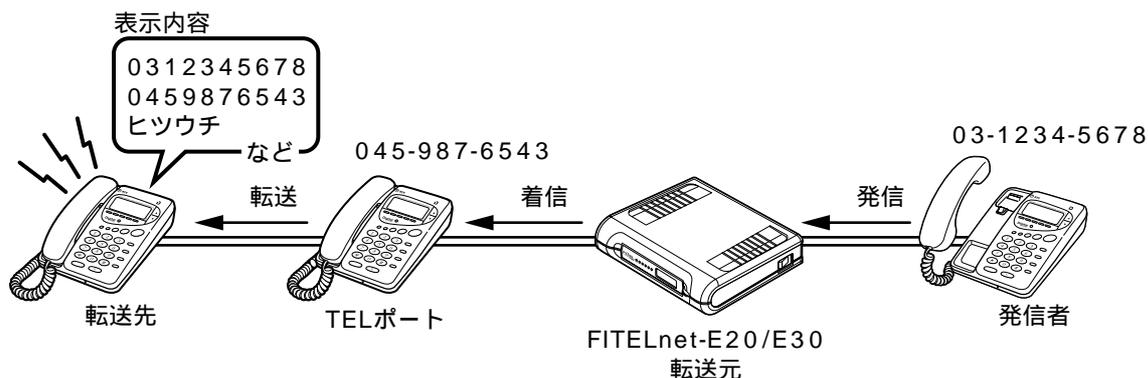
お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

着信転送とナンバー・ディスプレイについて

着信転送、またはフリー転送が設定されていて、転送先がナンバー・ディスプレイを契約している場合は、転送先に電話番号が表示されます。ただし、転送先に表示される電話番号は、設定により以下のように異なります。



フレックスホンの着信転送機能 (☞P86) をお使いの場合

発信者	転送先の表示内容
発信者番号を通知して発信	発信者の電話番号 (例: 0312345678)
発信者番号を通知せずに発信	発信者の非通知理由 (非通知、表示圏外など) (例: ヒツウチ)

フリー転送機能 (☞P93) をお使いの場合

フリー転送機能をお使いの場合は、発信者の発信者番号通知設定にかかわらず、本装置が着信したTELポートの設定によります。

着信したTELポートの 発信者番号通知設定 (☞P97)	転送先の表示内容	
通知しない	本装置に着信したTELポートの非通知理由 (非通知、表示圏外など) (例: ヒツウチ)	
通知する	本装置に着信したTELポートの電話番号 (例: 0459876543)	
契約による	通話ごと非通知	本装置に着信したTELポートの電話番号 (例: 0459876543)
	回線ごと非通知	本装置に着信したTELポートの非通知理由 (非通知、表示圏外など) (例: ヒツウチ)

着信種別設定を行うには

電話を受けたくないときは、着信種別を「着信禁止」に設定すると発信専用でご利用になります。「着信許可」に設定する場合は、着信許可の条件として「通信中着信許可」、「通話中追加呼出許可」、「追加呼出許可」が選択できます。着信種別はポートごとに設定できます。
[初期値：追加呼出許可]

着信種別		説明
着信禁止		着信を拒否し、発信専用にします。
着信許可	条件なし	着信できます。TEL1ポート、TEL2ポートに同じ電話番号を設定しており、すべて空いているときは、TEL1ポートに優先的に着信音を鳴らします。TEL1ポートが使用中の場合は、TEL2ポートの着信音を鳴らします。
	通信中着信許可 (コールウェイティング)	通話中に別の電話がかかってきたときに、割込音を鳴らします。TEL1ポート、TEL2ポートに同じ電話番号を設定しており、どちらも通話中のときは、TEL1ポートに優先的に割込音を鳴らします。
	追加呼出許可	TEL1ポート、TEL2ポートに同じ電話番号を設定している場合、着信時にすべての電話機の着信音を鳴らします。
	通話中追加呼出許可	TEL1ポート、TEL2ポートに同じ電話番号を設定している場合、空いているTELポートに着信音を鳴らすと同時に、通話中のTELポートに割込音を鳴らします。

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 ③、✳️を押します。

「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。

3 ①～⑤のいずれかを押します。

- 0：着信禁止
- 1：着信許可
- 2：通信中着信許可
- 3：追加呼出許可
- 4：通信中着信許可、追加呼出許可
- 5：通信中着信許可、追加呼出許可、通話中追加呼出許可
(TEL2ポートのみ)

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは (☞P64)

正しく設定されなかったときは (☞P84)

Webブラウザで設定するには (☞P125)

コマンドで設定するには (☞P131)

お知らせ

通信中着信許可または通話中追加呼出許可の設定を有効にする場合は、通信中着信通知サービスをNTTと契約(無料)する必要があります。

追加呼出や通話中追加呼出の着信音や割込音を遅らせて鳴らすことができます。
(☞P108)

お願い

通信中着信許可または通話中追加呼出許可に設定した場合、FAXやモデムが割込音のために接続障害を起こす場合があります。その場合は、設定を変更してください。

発信者番号通知設定を行うには

INSネットサービスでは、発信するとき、発信者番号(自局アドレスと自局サブアドレス)を相手の方に通知するかどうか(発信者番号通知サービス)をNTTとの契約(無料)により選ぶことができます。発信者番号を通知する契約をされた場合でも、通知しないように設定することができます。発信者番号通知設定は、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。

発信者番号通知を設定する

[初期値：NTTとの契約に従う]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ④、⊗を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ①～②のいずれかを押します。
0：発信者番号を通知しない
1：発信者番号を通知する
2：NTTとの契約に従う
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)
正しく設定されなかったときは(☞P84)
Webブラウザで設定するには(☞P125)
コマンドで設定するには(☞P131)

「発信者番号を通知する」に設定したときはTELポートに設定されている自局アドレスが通知されます。また、自局サブアドレスを設定している場合は、サブアドレスも通知されます。

お知らせ

通知した番号は、相手の方の電話機などに発信者番号を表示する機能や発信者番号を識別する機能がある場合に利用されます。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。
設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)
中継機能、コールバック機能を設定している場合は、必ず「発信者番号を通知する」に設定してください。
INSネット64のご契約時に、発信者番号通知サービスを、「常時通知拒否」でご契約になると、発信者番号通知機能を利用することができません。ご契約は「呼毎通知許可」としてください。

発信者番号通知設定を行うには

通知する電話番号（自局アドレス）を登録する

相手の方に発信者番号を通知するときの電話番号（自局アドレス）を登録できます。電話番号を登録しない場合や、間違った電話番号を登録した場合は、契約者回線番号が通知されます。

[初期値：未登録]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ④、⑥を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑨、<電話番号>、⑧を押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

「発信者番号を通知する」に設定したときはTELポートに設定されている自局アドレスが通知されます。また、自局サブアドレスを設定している場合は、サブアドレスも通知されます。

通知する自局アドレスの登録を解除するには

受話器を取りあげる

④、⑥、⑨、⑧を押す

受話器を置く

1回ごとに発信者番号通知設定を変更する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 次のいずれかを押します。
184：発信者番号通知を行わない
186：発信者番号通知を行う
- 3 相手の電話番号をダイヤルボタンで押し
ます。
- 4 相手の方が出たら、お話しください。
- 5 お話しが終わったら、受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

ワンポイント

「184」「186」をダイヤルして発信したときの発信者番号通知内容は

	ダイヤル手順		
	相手番号 (通常ダイヤル)	184+ 相手番号	186+ 相手番号
通話ごと 非通知 (呼毎通知許可)	通知する	通知しない	通知する
回線ごと 非通知 (呼毎通知拒否)	通知しない	通知しない	通知する
常時通知拒否	通知しない	電話をかけられ ません	電話をかけられ ません

お知らせ

1回ごとにTELポートの機器種別を変更する「181」「182」「183」や、フッキング代用機能を無効にする「185」をダイヤルしたときは、「184」「186」をダイヤルすることはできません。

グローバルセレクト、ダイヤルイン 設定を行うには

NTTのダイヤルインサービス（有料）をご契約になると、契約者回線番号に加えて複数の追加番号を持つことができます。これらの番号をダイヤルイン番号といい、TEL1ポート、TEL2ポートごとにダイヤルイン番号を設定しておく、外からダイヤルイン番号を指定してTELポートを特定して着信させることができます。ダイヤルイン番号は、自局アドレスとして設定します。なお、ダイヤルインサービスは、相手の方が電話網の場合でも利用することができます。詳しくはNTT窓口等お問い合わせください。

また、本装置には契約者回線番号（グローバル着信番号）をダイヤルイン番号のように扱い、特定の通信機器に直接着信させる機能（グローバルセレクト機能）があります。グローバルセレクト・ダイヤルイン設定は、TEL1ポート、TEL2ポートごとに行ってください。

[初期値：ダイヤルイン番号、グローバルセレクト機能を利用しない]

指定ダイヤルイン番号のみ着信するように設定する

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

お知らせ

グローバルセレクト、ダイヤルイン設定はTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑤、⊛を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⊛ボタンを押します。
- 4 登録するダイヤルイン番号をダイヤルボタンで押します。
- 5 ⊛ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 6 受話器を置きます。

指定ダイヤルイン番号と契約者回線番号（グローバル着信番号）で着信する

ワンポイント

グローバルセレクト機能を利用するにはダイヤルインサービスをご契約する際に「グローバル着信利用」を指定してください。また、「着信種別」は、「着信禁止」以外に設定してください。

お知らせ

ダイヤルイン番号は、市外局番をつけずに登録してください。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。
設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑤、⊛を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 登録するダイヤルイン番号をダイヤルボタンで押します。
- 4 ⊛ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

契約者回線番号(グローバル着信番号)のみ着信する(グローバルセレクト機能)ように設定する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑤、⑥を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑥、⑦を押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

ダイヤルイン番号、グローバルセレクト機能を利用しないように設定する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑤、⑥を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑦ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

サブアドレス設定を行うには

サブアドレスを利用した着信番号の登録が行えます。
サブアドレスを利用した着信では、外から電話をかけるとき、電話番号に続いてサブアドレスをダイヤルすれば、その電話機だけに着信させることができます。電話網からの電話やFAXがある場合は、ダイヤルインサービス(☎P100)をご契約になったほうが、より便利にお使いいただけます。中継機能(☎P78)を利用するときはサブアドレスを利用した着信はできません。中継先の電話番号を登録する場合は、以下の設定は無効になります。

[初期値：サブアドレスを利用しない]

指定サブアドレスのみ着信するよう設定する

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☎P64)
正しく設定されなかったときは(☎P84)
Webブラウザで設定するには(☎P125)
コマンドで設定するには(☎P131)

お知らせ

サブアドレス着信を利用するときは、「着信種別」を「着信禁止」以外に設定してください。
自局サブアドレスは、19桁まで登録できます。
ISDN網から着サブアドレスが送られてくると、自局サブアドレスとのチェックが行われます。着サブアドレスと自局サブアドレスが完全に一致しないと、着信は受け付けられません。
自局サブアドレスはTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑥、⑨を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑨ボタンを押します。
- 4 自局サブアドレスをダイヤルボタンで押し
ます。
- 5 ①ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」
という音が聞こえます。
- 6 受話器を置きます。

指定サブアドレスとサブアドレスなしを着信するよう設定する

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わない
てください。
設定が終了したら、保存操作を行って
ください。(☎P124)

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑥、⑨を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 自局サブアドレスをダイヤルボタンで押し
ます。
- 4 ①ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」
という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

サブアドレスなしのみ着信するよう設定する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑥、⑨を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑨、①を押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

サブアドレスを利用しないよう設定する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑥、⑨を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ①ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

機器種別設定(TELポートのHLC設定)を行うには

機器種別として、HLC（高位レイヤ整合性）を設定できます。
TELポートには、「任意」、「電話」、「FAX」の3種類をTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。「任意」に設定すると、電話、FAX、モデムのいずれの着信にも対応します。
また、TELポートが「FAX」に設定されていても、その発信に限り「電話」として発信したいなど、TELポートの設定とは別に、1回ごとの発信の機器種別を変更して、相手に通知することもできます。

TELポートの機器種別を設定する

[初期値：任意]

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

着信するTELポートを特定するには
ダイヤルイン番号または自局サブアドレスを設定して特定してください。
（☞P100、102）

発信時（フリー転送、フリー転送を利用した中継時、コールバックによる自動発信時を含む）は
機器種別（HLC）を相手に通知します。
ただし、「任意」に設定されている場合は、相手に通知しません。また、着信時は機器種別（HLC）が一致する相手だけと通信を行います。

機器種別と着信条件

受信した通信クラス ¹	指定なし ²	電話	FAX
設定した通信クラス			
任意			
電話			x
FAX		x	

¹ 送信する側で設定されている機器種別（HLC）

² 電話網からの電話やFAXがあった場合、または送信する側の機器種別（HLC）の指定がない場合

- 携帯電話からFAXした場合は、パソコン側のドライバによっては、機器種別（HLC）がFAXになるときもあります。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑦、⑧を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ①～③のいずれかを押します。
1：任意
2：電話
3：FAX
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

お知らせ

機器種別を「電話」に設定した場合は、機器種別が「FAX」に設定されている相手の方からの着信は受けられません。また、機器種別が「FAX」に設定されている場合は、機器種別が「電話」に設定されている相手の方からの着信は受けられません。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。
設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

1回ごとに機器種別を変更する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 次のいずれかを押します。
181：任意
182：電話
183：FAX
- 3 相手の電話番号をダイヤルボタンで押し
ます。
- 4 相手の方が出たら、お話しください。
- 5 お話が終わったら、受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

お知らせ

1回ごとの発信者番号通知を変更する「184」や「186」をダイヤルしたときは、「181」、「182」、「183」をダイヤルすることはできません。(☎P99)

ダイヤル完了タイマ設定を行うには

ダイヤル完了後に(Ⓜ)ボタンを押すとすぐに発信されますが、(Ⓜ)ボタンが押されないときは、ダイヤルが完了したかどうか(電話番号をダイヤルし終わったかどうか)は、タイマで認識されます。この時間を設定するのがダイヤル完了タイマです。ダイヤル完了タイマは0～9秒の間で設定できます。

[初期値：4秒]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 (Ⓚ)、(✳)を押します。
「ツウツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ダイヤル完了タイマ(0～9)をダイヤルボタンで押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは(☞P84)

Webブラウザで設定するには(☞P125)

コマンドで設定するには(☞P131)

ダイヤル完了タイマを0秒に設定するとダイヤル終了後、(Ⓜ)ボタンを押さないと発信しません。

-LCR機能を持つ電話機をご利用の場合はダイヤル完了タイマを9秒に設定してください。

お知らせ

ダイヤル完了タイマは、ダイヤルボタンを押すごとにリセットされます。

ダイヤル中に設定時間を経過すると、ダイヤルの途中でも発信されてしまいます。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

通話時のボリュームを調整するには

通話時のボリューム（受話音量）を2段階で調整できます。[初期値：大]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ①を押します。
- 4 ②または①を押します。
0：小
1：大
正しく設定されると「ツツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

ワンポイント

- ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）
- 正しく設定されなかったときは（☞P84）
- Webブラウザで設定するには（☞P125）
- コマンドで設定するには（☞P131）

お願い

- 通話・通信中のときは、設定を行わないでください。
- 設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

追加呼出遅延(ベル回数)を設定するには

着信種別設定で、追加呼出許可または通話中追加呼出許可の設定時、TEL2ポートに接続されている電話機をTEL1ポートに接続されている電話機よりも遅らせて着信音や割込音を鳴らすように設定できます。遅らせる時間はベルの回数で設定します。追加呼出遅延によって着信音が鳴っていない場合でも、TEL2ポートに接続されている電話機で電話に出ることができます。

[初期値：0回(なし)]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ①を押します。
- 4 遅らせるベル回数(0～9)をダイヤルボタンで押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは(☞P84)

Webブラウザで設定するには(☞P125)

コマンドで設定するには(☞P131)

追加呼出許可とは

外から電話がかかってきたときに、TEL1ポート、TEL2ポートに接続されたすべての電話機から着信音を鳴らすことができる設定です。(☞P96)

お知らせ

追加呼出遅延はTELポートごとに設定できます。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

時刻を設定するには

本装置の現在時刻を設定します。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ⑧、③を押します。
- 4 年月日時分をダイヤルボタンで押します。
年：西暦年の下2桁
月：2桁 1桁の月は先頭に0を加える
日：2桁 1桁の日は先頭に0を加える
時：2桁 1桁の時は先頭に0を加える
分：2桁 1桁の分は先頭に0を加える
(例) 2001年8月1日18時00分は、②、①、②、⑧、
②、①、①、⑧、②、②と押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」
という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

ワンポイント

- ダイヤルを押し間違えたときは (☞P64)
- 正しく設定されなかったときは (☞P84)
- Webブラウザで設定するには (☞P54)
- コマンドで設定するには (☞P54)

お願い

- 通話・通信中のときは、設定を行わない
ください。
- 設定が終了したら、保存操作を行って
ください。(☞P124)

フッキングを設定するには

フッキングを有効にするかどうかをTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。フッキングを無効に設定すると、フッキングを使った操作ができなくなりますのでご注意ください。また、キャッチボタンがない電話機でも(Ⓜ)ボタンをキャッチボタンと同様に利用できるように、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定することもできます(フッキング代用)。

フッキングを設定する

[初期値：有効]

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)
正しく設定されなかったときは(☞P84)
Webブラウザで設定するには(☞P125)
コマンドで設定するには(☞P131)

フッキングとは
電話機のフックスイッチを押すことです。
1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン(またはフックボタン、フラッシュボタン)を押します。フッキング代用機能をお使いのときは(Ⓜ)ボタンを押します。

1

受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2

⑨、⑩を押します。

「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。

3

②①～②②のいずれかを押します。

20：無効 21：有効 22：通信中発信のみ無効

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

4

受話器を置きます。

フッキング代用を設定する

ワンポイント

その発信に限りフッキング代用機能を無効にするには

受話器を取りあげる

①、⑧、⑤を押す

電話番号をダイヤルする

相手の方が出たらお話しする

ただし、1回ごとの発信者番号通知を変更する「184」や「186」をダイヤルしたときは、「185」をダイヤルすることはできません。

フッキング代用機能をお使いの場合に、相手の方がお話し中のときは

話中音が聞こえているときに(Ⓜ)、①の順に押しすと、話中音を消すことができます。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

「通信中発信のみ無効」に設定すると、通話中発信機能はご利用になれません。

フッキングにより、電話機自体の操作(例えば親機と子機間の操作など)を行う場合は、「無効」に設定してください。

[初期値：フッキング代用しない]

1

受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2

⑨、⑩を押します。

「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。

3

⑩ボタンを押します。

4

①または①を押します。

0：フッキング代用しない

1：フッキング代用する

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

5

受話器を置きます。

内線呼出ベルを設定するには

内線からの電話と外からの電話を区別できるように、内線電話機からの着信音を短いサイクルで鳴らすことができます。内線呼出ベルは、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。

[初期値：外線呼出ベルと同じ]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ③ ①または③ ①を押します。
30：外線呼出ベルと同じ
31：短く鳴らす
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

- ダイヤルを押し間違えたときは (☞P64)
- 正しく設定されなかったときは (☞P84)
- Webブラウザで設定するには (☞P125)
- コマンドで設定するには (☞P131)

お願い

- 通話・通信中のときは、設定を行わないでください。
- 設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

切断音制御を設定するには

INSネット64から送られてくる話中音や切断後のダイヤルトーンは、30秒経過すると停止します。その後、本装置から切断音を流すか、無音のままにするかをTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定することができます。

[初期値：利用する]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ④①または④②を押します。
40：利用しない（無音のまま）
41：利用する（切断音を流す）
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

識別着信を設定するには

識別着信を設定すると、設定した条件にあてはまる電話番号からの着信と特番（「110」「119」）からの着信だけを受けよう、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定することができます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

短縮ダイヤルを登録するには（☞P85）

匿名の電話とは

電話番号を通知せずにかけてきた電話のことです。

INSナンバー・ディスプレイをご契約の場合は、通知できなかった理由を確認できます。

お知らせ

INSなりわけサービスの設定を有効にする場合は、INSなりわけサービスをNTTと契約（有料）する必要があります。

疑似なりわけは識別着信されません。

識別着信はTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。TEL1ポートとTEL2ポート両方のポートに着信させたいときは、ポートごとに登録してください。

着信許可指定で、「追加呼出」が設定されていても、識別着信の設定が優先されます。

発信者が相手先に番号を通知しない（発信者番号通知なし）で電話をかけてきた場合は、着信しません。

短縮ダイヤルに登録されている自局アドレスと、ISDN網から送られてくる相手アドレス（発アドレス）が一致した場合だけ着信します。

NTT以外の回線を利用して電話をかけてきた場合は、発信者番号が通知されないことがあります。詳しくは、NTT窓口等へお問い合わせください。

NTT以外の回線からの着信を受けたいときは、その回線を区別する番号を含む電話番号と、区別する番号を含まない電話番号の両方を登録してください。

公衆電話等のアナログ電話からの識別着信にはINSナンバー・ディスプレイの契約が必要です。

[初期値：識別着信しない]

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 ⑨、⑩を押します。

「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。

3 ⑤ ① ~ ⑤ ⑥のいずれかを押します。

50：識別着信しない

51：本装置に登録されている短縮ダイヤルの電話番号のみ着信する（識別着信）

52：識別着信と、INSなりわけサービスに登録されている電話番号のみ着信する

53：発信者番号が通知されている電話と、INSなりわけサービスに登録されている電話番号のみ着信する

54：識別着信、INSなりわけサービスに登録されている電話番号、公衆電話からの電話のみ着信する

55：発信者番号が通知されている電話、INSなりわけサービスに登録されている電話番号、公衆電話からの電話のみ着信する

56：匿名以外の電話と、INSなりわけサービスに登録されている電話番号のみ着信する

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

4 受話器を置きます。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

FAX無鳴動着信を設定するには

TELポートに接続したFAXがFネットの無鳴動（1300Hz呼出）着信機能を持つとき、着信音を鳴らさずにFAXに着信することができます。

[初期値：FAX無鳴動着信を行わない]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ⑥① ~ ⑥④のいずれかを押します。
 - 60：FAX無鳴動着信を行わない
 - 61：着信時の機器種別（HLC）がFAXのときのみ無鳴動着信許可
 - 62：無条件に行う
 - 63：契約者回線番号（グローバル着信番号）への着信のみ無鳴動着信許可
 - 64：ダイヤルイン番号への着信のみ無鳴動着信許可正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく保存されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

INSナンバー・ディスプレイを設定するには

本装置はナンバー・ディスプレイに対応しています。

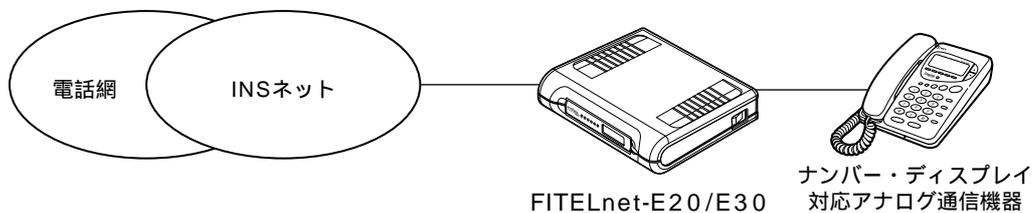
電話をかけてきた相手の方の電話番号（発信電話番号）や電話番号を通知できない理由を、アナログ通信機器や、本装置のディスプレイに表示することができます。

この機能をご利用になるためには、INSナンバー・ディスプレイの契約（有料）が必要です。ただし、相手の方がINSネットから発信電話番号を通知して電話をかけてきた場合は、未契約でも発信電話番号をアナログ通信機器や、本装置のディスプレイに表示することができます。

INSナンバー・ディスプレイをご利用になるには、以下の条件を満たす必要があります。

- ・アナログ通信機器に表示させたい場合は、ナンバー・ディスプレイ対応のアナログ通信機器を接続する。ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器は、必ずTEL1ポートに接続してください。
- ・ナンバー・ディスプレイ発信電話番号通知を「する」に設定する。

TEL1ポートに接続したアナログ通信機器に発信電話番号通知を行うしくみは次のとおりです。



発信電話番号が付加された着信があります。

本装置は、受信した発信電話番号をモデム信号に変換します。

ナンバー・ディスプレイ発信電話番号通知を「する」に設定したTELポートにモデム信号を送出し、本装置のディスプレイに発信電話番号を表示します。（ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器は鳴動しません）

ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器が、モデム信号で受信した発信電話番号を表示し、鳴動します。

お知らせ

ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器をTEL2ポートに接続しても、ナンバー・ディスプレイをご利用になれません。

INSナンバー・ディスプレイを設定するには

[初期値：ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を使用しない]

ワンポイント

- ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)
- 正しく設定されなかったときは(☞P84)
- Webブラウザで設定するには(☞P125)
- コマンドで設定するには(☞P131)

お知らせ

停電時はナンバー・ディスプレイをご利用になれません。
FAX無鳴動着信が設定されている場合も、ナンバー・ディスプレイの設定は有効です。

お願い

TEL1ポートにナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を接続した場合は、手順3で「使用する」に設定してください。接続状態と設定内容が正しくないと、ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器が誤動作します。
停電時、TEL1ポートが「ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を使用する」に設定されているときに着信を受けたときは、着信音が鳴ってから約6秒後に受話器を取りあげてください。その前に受話器を取りあげても電話はつながりません。
着信転送、フリー転送での呼出ベル回数(☞P89)や、追加呼出遅延(ベル回数)(☞P108)と、「ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を使用する」が同時に設定されていると、設定したベル回数より1~2回少なくなる場合があります。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ①、⑤を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ⑥① ~ ⑥②のいずれかを押します。
60：ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を使用しない
61：ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を使用する(モード1)
62：ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を使用する(モード2)
61(モード1)に設定してもうまく動作しない場合は、62(モード2)に設定を変更してください。
正しく設定されると、「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

お知らせ

INSナンバー・ディスプレイにおいて相手の方が電話番号を表示しない契約を結んでいる、または電話番号を表示しない操作をした場合などは、本装置に接続したアナログ通信機器や本装置のディスプレイに発信電話番号は通知されません。

このとき、電話番号を通知できない理由を、本装置に接続したアナログ通信機器や本装置のディスプレイに通知します。

ただし、INSナンバー・ディスプレイの契約において、非通知理由「有/無」の契約を「有」にする必要があります。

電話番号を通知できない主な理由は以下のとおりです。

- ・公衆電話から電話がかかってきたとき
 - ・かけてきた相手の方が電話番号を表示しない操作をしたとき、または表示しない契約になっているとき
 - ・ナンバー・ディスプレイを提供しないエリアから電話がかかってきたとき、またはサービスが競合しているため電話番号を通知できないとき
- なお、アナログ通信機器のディスプレイなどにどのように表示されるかは、アナログ通信機器によって異なります。

リソースBODの設定を「発信/着信時に使用する」、「発信時に使用する」、または「着信時に使用する」とした場合は、128KマルチリンクPPPを使用して128kbit/sのデータ通信中に着信は受け付けられませんが、発信電話番号はTELポートに接続したアナログ通信機器に通知されません。

INSナンバー・ディスプレイはTEL1ポートのみ設定できます。

アナログ通信機器によっては、発信電話番号などが正しく表示されないことがあります。

相手の方からサブアドレスが通知されていても、サブアドレスは表示されません。

疑似なりわけを設定するには

NTTのINSなりわけサービスをご契約でなくても、短縮ダイヤルに登録されている電話番号からかかってきた電話を疑似的に鳴り分けることができます。疑似なりわけは、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。

[初期値：疑似なりわけしない]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ①、②を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ⑤ ①または⑤ ②を押します。
50：疑似なりわけしない
51：疑似なりわけする
正しく設定されると、「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは(☞P84)

Webブラウザで設定するには(☞P125)

コマンドで設定するには(☞P131)

お知らせ

疑似なりわけは、短縮ダイヤルに登録されているすべての電話番号を鳴り分けません。

疑似なりわけは、通常の着信音より短いサイクルで4回ずつ鳴り、通常の着信音と区別されます。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

ベル周波数を設定するには

電話機のベルの周波数をTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。着信音の鳴り方がおかしいとき以外は、設定を変える必要はありません。

[初期値 : 16.7Hz]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ⑦① ~ ⑦③のいずれかを押します。
70 : 16.7Hz
71 : 20.0Hz
72 : 25.0Hz
73 : 33.3Hz
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは (☞P64)

正しく設定されなかったときは (☞P84)

Webブラウザで設定するには (☞P125)

コマンドで設定するには (☞P131)

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

発信者番号優先着信を設定するには

特定の相手からの電話をTEL1ポート、TEL2ポートのいずれかに強制的に着信させることができます。したがって、発信者番号優先着信を設定すると、着番号とTELポートに登録したダイヤルイン番号やサブアドレス、また機器種別が不一致でも着信します。また、識別着信の設定によらず着信します。

短縮ダイヤル00～09に電話番号を登録し、発信者番号優先着信を設定します。

短縮ダイヤルはTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。TEL1ポートとTEL2ポートで同じ番号を登録した場合は、TEL1ポートでの設定が優先されます。

[初期値：発信者番号優先着信しない]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑨ ⑩または⑨ ①を押します。
90：発信者番号優先着信しない
91：発信者番号優先着信する
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは(☞P84)

Webブラウザで設定するには(☞P125)

コマンドで設定するには(☞P131)

お知らせ

発信者番号優先着信と着信転送/コールバック/中継機能の登録が重なった場合は、発信者番号優先着信で着信後、着信転送/コールバック/中継を行います。発信者番号優先着信は、相手からの発信者番号通知が必要です。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

その他の機能を設定するには

本装置に接続されている電話機から以下を設定することもできます。

- ・ディスプレイのバックライト設定
- ・IPアドレス設定用暗証番号
- ・サブネットマスク設定

ディスプレイのバックライトを設定する

本装置のディスプレイのバックライトを点灯させるかどうかを設定できます。

[初期値：自動点灯]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ⑧①① ~ ⑧②のいずれかを押します。
80：常時点灯
81：常時消灯
82：自動点灯
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは (←P64)

正しく設定されなかったときは (←P84)

IPアドレス設定用暗証番号を設定する

電話機からIPアドレス、サブネットマスクを設定する場合の暗証番号を設定できます。暗証番号には、0～9の数字と、**＊**、**＃**が設定できます。

[初期値 : 暗証番号0000]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 **＊**、**＃**、**⑧**を押します。
- 3 4桁の旧暗証番号（例：**①** **②** **③** **④**）を押します。
登録されていない場合は「0000」と押します。
- 4 4桁の新暗証番号（例：**⑤** **⑥** **⑦** **⑧**）を押します。
本装置のディスプレイに、旧暗証番号に続けて新暗証番号が表示されます。
IPアドレス、サブネットマスク設定用暗証番号が登録されます。
正しく設定されると「ツツツツ...」という音が聞こえ、ディスプレイに暗証番号が表示されます。

アンショウ ハンゴウ
5 6 7 8
- 5 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

IPアドレス、サブネットマスクを設定する

電話機からIPアドレス、サブネットマスクを設定できます。これらの設定をする場合は、先に暗証番号を登録しておいてください。

[初期値：未設定]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 *****、**#**、**9**を押します。
- 3 IPアドレス、サブネットマスク設定用暗証番号を押します。
IPアドレス入力モードになり、現在のIPアドレスが本装置のディスプレイに表示されます。
「ツウツウツウツウツウツウ」という音を確認してください。
(例) 現在のIPアドレスが「192.168.1.100」の場合

1 9 2 1 6 8 0 0 1 1 0 0
- 4 設定するIPアドレスを入力します。
例えばIPアドレスが「192.168.10.1」の場合は次のようにダイヤルボタンで押します。
「192#168#010#001」
入力したIPアドレスが本装置のディスプレイに表示されます。

1 9 2 1 6 8 0 0 1 1 0 0
1 9 2 1 6 8 0 1 0 0 0 1

ワンポイント

IPアドレス、サブネットマスクを間違えた場合は

ⓧを押します。入力中の3桁の数字がクリアされ、再入力できます。

IPアドレスだけを設定、更新する場合は手順5のあと、手順7に進みます。

サブネットマスクだけを設定、更新する場合は

手順3のあと、手順5に進みます。

設定をやり直すには

受話器を置き、もう一度はじめからやり直します。

現在のIPアドレス、サブネットマスクを確認するには

受話器を取りあげる

Ⓜ、ⓧ、Ⓜ、⑨とダイヤルボタンで押す

ディスプレイに現在の設定が約10秒間表示されます。

受話器を置く

お知らせ

暗証番号を間違えたり、3桁の数字に000～255以外の数字を入力した場合は、設定は無効になります。

手順8で②を押した場合は、設定は無効になります。

5 Ⓜを押します。

「ツツツツツ」という音が鳴り、IPアドレスが設定されます。続いてサブネットマスク入力モードになります。

現在のサブネットマスクが本装置のディスプレイに表示されます。

「ツー」という音を確認してください。

(例)現在のサブネットマスクが「255.255.255.0」の場合

2 5 5 2 5 5 2 5 5 0 0 0

6 設定するサブネットマスクを入力します。

例えばサブネットマスクが「255.255.255.248」の場合は次のようにダイヤルボタンで押します。

「255#255#255#248」

入力したサブネットマスクが本装置のディスプレイに表示されます。

2 5 5 2 5 5 2 5 0 0 0 0
2 5 5 2 5 5 2 5 5 2 4 8

7 Ⓜを押します。

「ツツツツツ」という音が鳴り、サブネットマスクが設定されます。

1, オンフック-OK
2 - CANCEL

8 ①を押すか、受話器を置きます。

設定したIPアドレス、サブネットマスクが更新されます。装置がリセットされます。

設定を保存するには

設定が終了したら、設定の保存を行ってください。
どのTELポートから保存操作を行っても、すべてのTELポートの設定内容が保存されます。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩、⑪を押します。
正しく保存されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 3 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく保存されなかったときは
保存操作を終えたあと、「ツツツツツ」という音が聞こえなかったときは、正しく保存されていません。この場合は、1回フッキングをして、手順2からやり直してください。フッキング代用機能をお使いのときは、受話器を置き、はじめからやり直してください。

コマンドで保存するには(☞P131)

お願い

通話・通信中のときは、保存を行わないでください。

設定操作後、設定の保存に約3秒間かかります。この間、通話・通信は行わないでください。

Webブラウザを利用した設定

アナログポートに接続されているアナログ通信機器の機能をWebブラウザから設定することができます。

電話機能を設定する

- 1 設定画面を起動し、本装置にログインします。
(☞P35)
- 2 設定するアナログ機能をクリックします。
 - ・基本設定 (☞P126)
 - ・応用設定 (☞P127)
 - ・着信転送設定 (☞P128)
 - ・コールバック、中継設定 (☞P129)
 - ・短縮ダイヤル登録 (☞P130)
- 3 設定が終わったら、[送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 4 [OK] をクリックします。

お知らせ

Webブラウザを利用した設定方法について、詳しくは『クイックスタートガイド』を参照してください。

基本設定

TEL1ポート、TEL2ポートに接続されているアナログ通信機器の基本的な機能を設定します。電話の [基本設定] をクリックすると表示される画面です。例はTEL1ポートの画面です。

i・ナンバー

i・ナンバー契約時に取得された追加番号を入力します。

着信種別 (☞P96)

アナログポートの着信種別を選択します。「着信禁止」を選択すると、そのTELポートは発信専用になります。また、「通話中着信許可、追加呼出し許可、通話中追加呼出し許可」はTEL2ポートのみ選択できます。

優先着信 (☞P119)

特定の相手からの電話を優先的に着信させるとき「する」を選択します。

内線呼出ベル (☞P111)

内線からの電話と外からの電話を区別できるように、内線からの着信音を短いサイクルで鳴らすとき「短く鳴らす」を選択します。

識別着信 (☞P113)

特定の相手からの電話のみを着信させるとき、着信条件を選択します。

グローバルセレクト/ダイヤルイン (☞P100)

グローバル着信番号、ダイヤルイン番号でかかってきた電話のみを着信させるとき、着信条件を選択します。

ナンバー・ディスプレイ (☞P115)

TEL1ポートにナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を接続するとき、「ナンバー・ディスプレイ対応電話」を選択します。

ダイヤル完了タイム (☞P106)

ダイヤル完了後に(Ⓜ)ボタンが押されないとき、ダイヤルが完了したかどうかを認識するタイムを設定します。「」を選択したときは、(Ⓜ)ボタンを押さないと発信しません。

ボリューム調整 (☞P107)

通話時の受話音量を選択します。

追加呼出し遅延 (☞P108)

TEL2ポートに接続されている電話機の着信音をTEL1ポートより遅らせて鳴らすとき、遅らせるベル回数を選択します。TEL2ポートのみ設定できます。

TEL1ポートの画面には表示されません。

応用設定

TEL1ポート、TEL2ポートに接続されているアナログ通信機器の応用機能を設定します。電話の [応用設定] をクリックすると表示される画面です。例はTEL1ポートの画面です。

電話の応用設定

ご注意：各設定項目にて入力する文字は半角で入力してください。

TEL1			
発信者番号通知 <input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> 契約による	機器種別 <input checked="" type="radio"/> 任意 <input type="radio"/> 電話 <input type="radio"/> FAX	フッキング <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 通話中発信のみ無効	フッキング代用 <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
切断音制御 <input type="radio"/> 利用しない <input checked="" type="radio"/> 利用する	疑似なりわけ <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	サブアドレス サブアドレスのチェックは行わない サブアドレス: <input type="text"/>	
FAX無鳴動 <input type="radio"/> 行わない		ベル周波数 16.7 Hz	

3 アナログ通信 機器を使う

発信者番号通知 (☞P97)

発信するとき、発信者番号を相手の方に通知するかどうかを選択します。

機器種別 (☞P104)

TELポートの機器種別 (HLC) を選択します。

フッキング (☞P110)

フッキングを有効にするときは「有効」を選択します。

フッキング代用 (☞P110)

キャッチボタンなどが無い電話機で、**(Ⓜ)** ボタンを使ってフッキング機能を利用するときは「する」を選択します。

切断音制御 (☞P112)

切断音を流すかどうかを選択します。

疑似なりわけ (☞P117)

NTTのINSなりわけサービスを契約していなくても、短縮ダイヤルに登録されている電話番号からかかってきた電話を疑似的に鳴り分けるときは「する」を選択します。

サブアドレス (☞P102)

かかってきた電話を着信するかどうか、サブアドレスを利用して選択します。

FAX無鳴動 (☞P114)

着信音を鳴らさずにFAXを着信するかどうかを選択します。

ベル周波数 (☞P118)

電話機のベルの周波数を選択します。

着信転送設定

TEL1ポート、TEL2ポートに接続されているアナログ通信機器の着信転送機能を設定します。電話の [着信転送設定] をクリックすると表示される画面です。例はTEL1ポートの画面です。

着信転送 (☞P86)

NTTのフレックスホンサービスの着信転送機能を利用するときは「する」を選択します。

着信転送先番号 (☞P86)

着信転送機能を利用するとき、転送先の電話番号を入力します。

追っかけ転送番号 (☞P94)

疑似フレックスホン機能を利用して代替転送(追っかけ転送)するとき、追っかけ転送先の電話番号を入力します。

転送トーカー (☞P90)

着信転送機能を利用するとき、転送トーカー・転送先トーカーを利用するかどうかを選択します。

フリー転送 (☞P93)

NTTのフレックスホンサービスを契約していなくても、外からの電話を転送するように設定するかどうかを選択します。

暗証番号 (☞P91)

着信転送機能を利用しているとき、リモート設定を行うための暗証番号を設定します。

転送開始までの呼出しベル回数 (☞P89)

着信転送機能、フリー転送を利用しているとき、転送開始するまでの着信音ベル回数を設定します。「即転送」を選択すると、着信音は鳴らずに転送します。

コールバック・中継設定

TEL1ポート、TEL2ポートに接続されているアナログ通信機器のコールバック機能、中継機能を設定します。電話の [コールバック・中継設定] をクリックすると表示される画面です。例はTEL1ポートの画面です。

電話のコールバック設定

ご注意：各設定項目にて入力する文字は半角で入力してください。

TEL1

コールバックモード
コールバックしない

中継モード
 中継しない
 中継する

コールバック番号登録(短縮登録20から39を兼用)

20:	<input type="text"/>	30:	<input type="text"/>
<small>(発信者番号通知がない時のコールバック先)</small>			
21:	<input type="text"/>	31:	<input type="text"/>
22:	<input type="text"/>	32:	<input type="text"/>
23:	<input type="text"/>	33:	<input type="text"/>
24:	<input type="text"/>	34:	<input type="text"/>
25:	<input type="text"/>	35:	<input type="text"/>
26:	<input type="text"/>	36:	<input type="text"/>
27:	<input type="text"/>	37:	<input type="text"/>
28:	<input type="text"/>	38:	<input type="text"/>
29:	<input type="text"/>	39:	<input type="text"/>

コールバックモード (☛P76)
コールバックモードを選択します。
中継モード (☛P78)
中継モードを選択します。

コールバック番号登録 (☛P76)
コールバックする電話番号、中継機能を利用する電話番号を入力します。

3
アナログ通信
機器を使う

短縮ダイヤル登録

TEL1ポート、TEL2ポートに接続されているアナログ通信機器の短縮ダイヤル番号を設定します。
電話の [短縮登録] をクリックすると表示される画面です。例はTEL1ポートの画面です。

電話の短縮登録

ご注意：各設定項目にて入力する文字は半角で入力してください。

TEL1

短縮番号登録 (短縮登録20から39はコールバックと兼用)

00:	<input type="text"/>	20:	<input type="text"/>
01:	<input type="text"/>	21:	<input type="text"/>
02:	<input type="text"/>	22:	<input type="text"/>
03:	<input type="text"/>	23:	<input type="text"/>
04:	<input type="text"/>	24:	<input type="text"/>
05:	<input type="text"/>	25:	<input type="text"/>
06:	<input type="text"/>	26:	<input type="text"/>
07:	<input type="text"/>	27:	<input type="text"/>
08:	<input type="text"/>	28:	<input type="text"/>
09:	<input type="text"/>	29:	<input type="text"/>
10:	<input type="text"/>	30:	<input type="text"/>
<small>(発信者番号通知がない時のコールバック先)</small>			
11:	<input type="text"/>	31:	<input type="text"/>
12:	<input type="text"/>	32:	<input type="text"/>
13:	<input type="text"/>	33:	<input type="text"/>
14:	<input type="text"/>	34:	<input type="text"/>
15:	<input type="text"/>	35:	<input type="text"/>
16:	<input type="text"/>	36:	<input type="text"/>
17:	<input type="text"/>	37:	<input type="text"/>
18:	<input type="text"/>	38:	<input type="text"/>
19:	<input type="text"/>	39:	<input type="text"/>

短縮番号登録 (☞P85)

短縮ダイヤルに登録する電話番号を市外局番から入力します。以下に登録された短縮ダイヤルは、その他の機能と兼用して利用されます。

短縮番号	電話番号を兼用する機能
00 ~ 09	発信者番号優先着信 (☞P119)
20 ~ 39	コールバック機能 (☞P76) 中継機能 (☞P78)

コマンドを利用した設定

アナログポートに接続されているアナログ通信機器の機能を、シリアルポートに接続されている端末から設定することができます。

アナログポートの設定をする

アナログ機能に関する設定方法について説明します。アナログ機能で設定できるのは次の機能です。

- 短縮ダイヤル登録
- 発信者番号通知
- 機器種別 (HLC)
- 追加呼出遅延
- 内線呼出ベル
- 着信種別
- 疑似なりわけ
- i・ナンバー
- コールバック / 中継
- グローバルセレクト / ダイヤルイン
- ダイヤル完了タイマ
- フッキング
- 切断音制御
- FAX無鳴動着信
- ベル周波数
- 着信転送
- サブアドレス
- ボリューム調整
- フッキング代用
- 識別着信
- INSナンバー・ディスプレイ
- 発信者番号優先着信

アナログポートの設定には以下の特徴があります。

- TEL1ポート、TEL2ポート別に設定する
- 設定された項目は即時有効となる
- 保存コード (9 * #) を入力しないと本装置に保存されないため、保存しないまま本装置がリセットされた場合は無効になる

TELポートの選択と復帰

- 1 設定するTELポート名を入力します。たとえばTEL1ポートを設定するときは「tel1」と入力します。

#tel1

- 2 TELモードになり、コマンド入力待ち状態になります。

tel1#

- 3 コマンド、パラメータを入力し、アナログポートの設定を行います。

(例) 短縮ダイヤル登録

tel1# 0*0011112222#

- 4 設定内容を保存する場合は、「9 * #」と入力します。

tel1# 9*#

次ページへ続く

5 復帰するときには、「exit」と入力します。

```
tel1# exit
```

6 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

コマンドの使い方

短縮ダイヤルの設定方法を例にコマンドの使い方を説明します。
コマンドは次のような形式になっています。

短縮ダイヤル登録

機能名	設定方法	説明
短縮ダイヤル登録	0* 短縮番号 電話番号 #	短縮番号 は「00」～「39」の範囲とする。 工場出荷時設定は未登録。

内には、設定する数値を入れます。 自体は入力しません。設定例は次のようになります。

短縮番号00に電話番号11112222を設定するときは、「0*0011112222#」と入力します。

tel1# 0*0011112222#

コマンド入力待ち状態になります。

tel1#

設定が終わったら、設定内容を保存します。(←P41)

コマンド一覧

内には、設定する数値を入れます。 自体は入力しません。

短縮ダイヤル登録

機能名	設定方法	説明
短縮ダイヤル登録	0* 短縮番号 電話番号 #	短縮番号 は「00」～「39」の範囲とする。 工場出荷時設定は未登録。

コールバック / 中継

機能名	設定方法	説明
コールバックしない	1*0	工場出荷時設定
相手番号が登録されている場合のみ、コールバックする	1*1	
相手番号が登録されている、または、発信者番号通知のない場合もコールバックする	1*2	
中継しない	1*30	工場出荷時設定
任意の電話番号を中継する	1*31	

INSナンバー・ディスプレイ

機能名	設定方法	説明
ナンバー・ディスプレイを使わない	1*60	工場出荷時設定
ナンバー・ディスプレイを使う (モード1)	1*61	
ナンバー・ディスプレイを使う (モード2)	1*62	

コマンドを利用した設定

疑似なりわけ

機能名	設定方法	説明
疑似なりわけしない	1 * 50	工場出荷時設定
疑似なりわけする	1 * 51	

着信転送

機能名	設定方法	説明
着信転送しない	2 * 0	工場出荷時設定
着信転送する	2 * 1	
着信転送先番号	2 * 2 転送先電話番号 #	工場出荷時は未登録
呼出ベル回数	2 * 3 呼出ベル回数	呼出ベル回数は「0」～「9」の範囲とする。 「0」が工場出荷時設定。
転送トーンなし・転送元トーンなし	2 * 41	工場出荷時設定
転送トーンあり・転送元トーンなし	2 * 42	
転送トーンなし・転送元トーンあり	2 * 43	
転送トーンあり・転送元トーンあり	2 * 44	
着信転送設定用暗証番号	2 * 5 設定用暗証番号	設定用暗証番号、解除用暗証番号はいずれも「0000」～「9999」の範囲とする。 工場出荷時は未登録
着信転送解除用暗証番号	2 * 6 解除用暗証番号	
フリー転送禁止	2 * 70	
フリー転送許可1 転送失敗時、 発信者に話中音を通知する	2 * 71	工場出荷時設定
フリー転送許可2 転送失敗時、 発信者にアナウンスを通知する (通話料がかかります)	2 * 72	
フリー転送代替着信 本装置が最初に着信したTELポートに接続されている電話機を呼び出す	2 * 73	
追っかけ転送先番号	2 * 8 追っかけ転送先電話番号 #	工場出荷時は未登録

着信種別

機能名	設定方法	説明
着信禁止	3 * 0	
着信許可	3 * 1	
通信中着信許可	3 * 2	
追加呼出許可	3 * 3	工場出荷時設定
通信中着信許可、追加呼出許可	3 * 4	
通信中着信許可、追加呼出許可、 通話中追加呼出許可	3 * 5	
i・ナンバーの追加番号登録	3 * 8 追加番号 #	追加番号は市外局番なしとする。
i・ナンバーの追加番号登録	3 * 9 追加番号 #	i・ナンバー3番号を契約の場合に設定する。 追加番号は市外局番なしとする。

発信者番号通知

機能名	設定方法	説明
しない	4 * 0	
する	4 * 1	
NTTとの契約内容に従う	4 * 2	工場出荷時設定

発信者番号自局アドレス登録

機能名	設定方法	説明
自局アドレスを登録する	4 * 9 < 自局アドレス > #	
自局アドレスを解除する	4 * 9 #	工場出荷時設定

グローバルセレクト / ダイヤルイン / i・ナンバー

機能名	設定方法	説明
ダイヤルイン番号または追加番号のみ着信する	5 * * ダイヤルイン番号 (ダイヤルインの場合) # 5 * * 追加番号 (i・ナンバーの場合) #	
ダイヤルイン番号または追加番号、契約者回線番号で着信する	5 * ダイヤルイン番号 (ダイヤルインの場合) # 5 * 追加番号 (i・ナンバーの場合) #	
契約者回線番号のみ着信する	5 * * #	
番号のチェックをしない	5 * #	工場出荷時設定

サブアドレス

機能名	設定方法	説明
サブアドレスのみ着信する	6 * * サブアドレス #	
サブアドレスありとサブアドレスなしを着信する	6 * サブアドレス #	
サブアドレスなしのみ着信する	6 * * #	
サブアドレスのチェックをしない	6 * #	工場出荷時設定

機器種別 (HLC)

機能名	設定方法	説明
任意	7 * 1	工場出荷時設定
電話	7 * 2	
FAX	7 * 3	

ダイヤル完了タイマ

機能名	設定方法	説明
ダイヤル完了タイマ	8 * ダイヤル完了タイマ	ダイヤル完了タイマ は「0」～「9」の範囲とする。「4」が工場出荷時設定。

その他

機能名	設定方法	説明	
ボリューム調整	小	9 * 00	
	大	9 * 01	工場出荷時設定
追加呼出遅延 (ベル回数)	9 * 1 ベル回数	ベル回数 は「0」～「9」の範囲とする。「0」が工場出荷時設定。	
時刻の登録	9 * 83	yymmddhhmm (年月日時分)	
フッキング	無効	9 * 20	
	有効	9 * 21	工場出荷時設定
	通信中発信のみ無効	9 * 22	

コマンドを利用した設定

その他（つづき）

機能名		設定方法	説明
フッキング 代用	代用しない	9 * * 0	工場出荷時設定
	代用する	9 * * 1	
オフフック 発信	しない	9 * * 2	
	する	9 * * 3	
内線呼出 ベル	外線呼出ベルと同じ	9 * 30	工場出荷時設定
	短いサイクル	9 * 31	
切断音制御	無音	9 * 40	
	切断音	9 * 41	工場出荷時設定
識別着信	しない	9 * 50	工場出荷時設定
	短縮ダイヤルに登録されている電話番号のみ着信(識別着信)	9 * 51	
	識別着信とINSなりわけサービスに登録されている電話番号のみ着信	9 * 52	
	発信者番号が通知されている電話と、INSなりわけサービスに登録されている電話番号のみ着信	9 * 53	
	識別着信、INSなりわけサービスに登録されている電話番号、公衆電話からの電話のみ着信	9 * 54	
	発信者番号が通知されている電話、INSなりわけサービスに登録されている電話番号、公衆電話からの電話のみ着信	9 * 55	
	匿名以外の電話と、INSなりわけサービスに登録されている電話番号のみ着信	9 * 56	
FAX無鳴動 着信	禁止	9 * 60	工場出荷時設定
	着信時のHLCがFAXのときのみ許可	9 * 61	
	許可	9 * 62	
	契約者回線番号から着信したときのみ許可	9 * 63	
	ダイヤルイン番号から着信したときのみ許可	9 * 64	
ベル周波数	16.7Hz	9 * 70	工場出荷時設定
	20.0Hz	9 * 71	
	25.0Hz	9 * 72	
	33.3Hz	9 * 73	
発信者番号 優先着信	しない	9 * 90	工場出荷時設定
	する	9 * 91	
アナログ機能設定の保存		9 * #	モードにかかわらず両ポートの内容を保存する。
前回の通話料金		# * * 0	
電話料金の累計		# * * 1	
フレックスホンの契約内容表示		# # *	
フリー転送履歴件数		# # #	

アナログポートに接続されているアナログ通信機器や、シリアルポートに接続されている端末から、その他のアナログ機器を設定したり、設定内容を確認することができます。

フレックスホン契約状況を表示する（lineisコマンド）

フレックスホンの契約状況を表示する方法を説明します。フレックスホンの契約状況には次の項目があります。

契約状況	表示
無契約	no contract
着信転送	call deflection
三者通話	three-party service
コールウェイトニング	call waiting
通信中転送	call transfer

1 「lineis」と入力します。

```
#lineis
```

2 結果が表示されます。

フレックスホン契約状況のほか、LANやWAN回線の状態も表示されます。

```
<LAN>
interface: ISO8802 - 3
<HSD>
speed: 0 (Kbps)
operationStatus: clear      layer 1  Status: other
.
.
.
<Flexphone>
call deflection, three-party service, call waiting, call transfer
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

お知らせ

最新のフレックスホン契約状況を表示するには、本装置を再起動するか、ISDN回線（LINE Uポート）からいったん電話機コードを外し、差し込み直してから、コマンドを実行してください。

課金情報を表示 / クリアする (charge コマンド)

アナログポートの最新課金情報と累積課金情報の表示またはクリアについて説明します。表示はTEL1ポート、TEL2ポートごとに表示できます。ISDN1、ISDN2チャンネルの課金情報もともに表示されます。

課金情報を表示する

< コマンド操作 >

1 「charge」と入力します。

```
#charge
```

2 結果が表示されます。

```
ISDN 1 routing total charge(yen): 1560
ISDN 2 routing total charge(yen): 500
TEL1 charge(yen): 30 total charge(yen): 1500
TEL2 charge(yen): 0 total charge(yen): 0
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

課金情報をクリアする

< コマンド操作 >

1 「charge -c」と入力します。

課金情報がクリアされます。

```
#charge -c
```

2 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

お知らせ

最新課金とは直前に使った通話にかかった課金です。

料金は目安ですので、請求書の額と一致しないことがあります。表示される料金の1円未満は切り捨てられます。

< 電話機での操作 >

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ②、③を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ④、④、④と押します。
クリアされると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

コールバック課金情報を表示 / クリアする (charge callback コマンド)

コールバックして接続したときの課金金額を、短縮番号ごとに累計しています。課金情報を表示またはクリアする方法を説明します。

コールバック課金情報を表示する

- 1 「charge callback」と入力します。

```
# charge callback
```

- 2 結果が表示されます。

```
TEL1 callback charge (yen)
(20):  2000      (30):    0
(21):  1840      (31):    0
(22):    10      (32):    0
(23):   390      (33):    0
(24):    0       (34):    0
(25):   680      (35):    0
(26):   800      (36):    0
(27):    0       (37):    0
(28):    0       (38):    0
(29):    0       (39):    0
TEL2 callback charge (yen)
(20):  2000      (30):    0
(21):  1840      (31):    0
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

コールバック課金情報をクリアする

< コマンド操作 >

1 「charge -c callback」と入力します。

課金情報がクリアされます。

```
# charge -c callback
```

2 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

< 電話機での操作 >

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 ②、③を押します。

「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。

3 ④、< 情報をクリアする短縮番号 > と押します。

クリアされると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

4 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

回線割り当てを設定する (rbodコマンド)

R-BOD (Resource Bandwidth On Demand) を設定する方法について説明します。

ISDN回線に2本あるBチャンネルを、ルーティング機能とアナログ機能でどのように使い分けるのかを設定します。

お買い求め時の設定は、空いているISDN回線はアナログとルーティングの両方の要求に応じるようになって

います。ここでは、2チャンネルのうち、1チャンネルをルーティング専用に確保する方法について説明します。

このコマンドはコンフィグレーションモードで使います。

- 1 コンフィグレーションモードに移行します。(←P40)

```
#conf
Configuration password:
conf#
```

- 2 1Bチャンネルをルーティング専用に確保するときは、「rbod routing=fix」と入力します。

```
conf# rbod routing=fix
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
conf#
```

- 4 本装置をリセットします。(←P41)

ワンポイント

R-BODとは

2本のBチャンネルを使用して(MP)データの中継を行っているときに、電話の発信/着信があった場合、1本のBチャンネルを電話用に割り当てる機能です。

お知らせ

rbodコマンドには下記の機能があります。詳しくはコマンドリファレンスを参照してください。

指定方法

```
rbod [[routing={fix | normal}] [called={on | off}] [calling={on | off}]]
```

機能

オプション	機能
routing=fix	2Bチャンネルある回線のうち、1Bチャンネルを確実にルーティング用に確保し、アナログには割り当てない。
routing=normal	空いているISDN回線はアナログ/ルーティング要求に応じて使用できる。(工場出荷時の値)
called=on	MPで2Bチャンネル使用中にアナログ着信に対して1Bチャンネルを譲る。(工場出荷時設定)
called=off	MPで2Bチャンネル使用中にアナログ着信に対して1Bチャンネルを譲らない。
calling=on	MPで2Bチャンネル使用中にアナログ発信に対して1Bチャンネルを譲る。(工場出荷時設定)
calling=off	MPで2Bチャンネル使用中にアナログ発信に対して1Bチャンネルを譲らない。

BACPを設定する (bacpコマンド)

このコマンドはコンフィグレーションモードで使います。

- 1 コンフィグレーションモードに移行します。
(←P40)

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

- 2 BACPの実施を止めるときは、「bacp off」と入力します。

```
conf# bacp off
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
conf#
```

- 4 本装置をリセットします。(←P41)

ワンポイント

BACPとは
R-BOD機能を利用するための手順です。

お知らせ

BACPには下記の機能があります。詳しくはコマンドリファレンスを参照してください。

指定方法

```
bacp [[off|on][protocol={new|old}]  
[learning={on|off}]]
```

機能

オプション	機能
off	BACPを実施しません。
on	BACPを実施します。 (工場出荷時設定) newまたはoldを指定できます。
new	新版のプロトコルID (BACP:C02B、BAP:C02D) を使用する。 (工場出荷時設定)
old	旧版のプロトコルID (BACP:8071、BAP:0071) を使用する。

3
アナログ通信
機器を使う

TELポートごとにアナログ機能の設定を表示する (showコマンド、displayコマンド)

TEL1ポート、TEL2ポートごとにアナログ機能の設定内容を表示する方法について説明します。アナログ機能の設定内容を表示する方法には、showコマンドを使う方法とdisplayコマンドを使う方法の2つがあります。

show	現在有効なアナログ機能の設定項目
display	本装置に保存されているアナログ機能の設定項目

表示するポートは、プロンプトの切り替えにより変更します。

表示する内容	プロンプト
TEL1ポートの内容を表示する	tel1 #
TEL2ポートの内容を表示する	tel2 #

プロンプトの切り替えは、「モードの移行」(P40)を参照してください。

どちらのコマンドも使い方は同じです。ここではshowコマンドを例に説明します。

- 1 TEL1ポートの設定内容を表示するときは、tel1プロンプトで「show」と入力します。

```
tel1#show
```

- 2 現在有効なTEL1ポートの短縮ダイヤルとアナログ設定項目が表示されます。

```
tel1 # show
1 *      0
1 * 3    0
2 *      0
2 * 2    #
2 * 3    0
2 * 4    1
2 * 5
2 * 6

(17):12345678901234567890
(18):12345678901234567890
(19):12345678901234567890
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
tel1#
```